

金ヶ崎周辺施設整備計画策定委員会

第3回説明資料

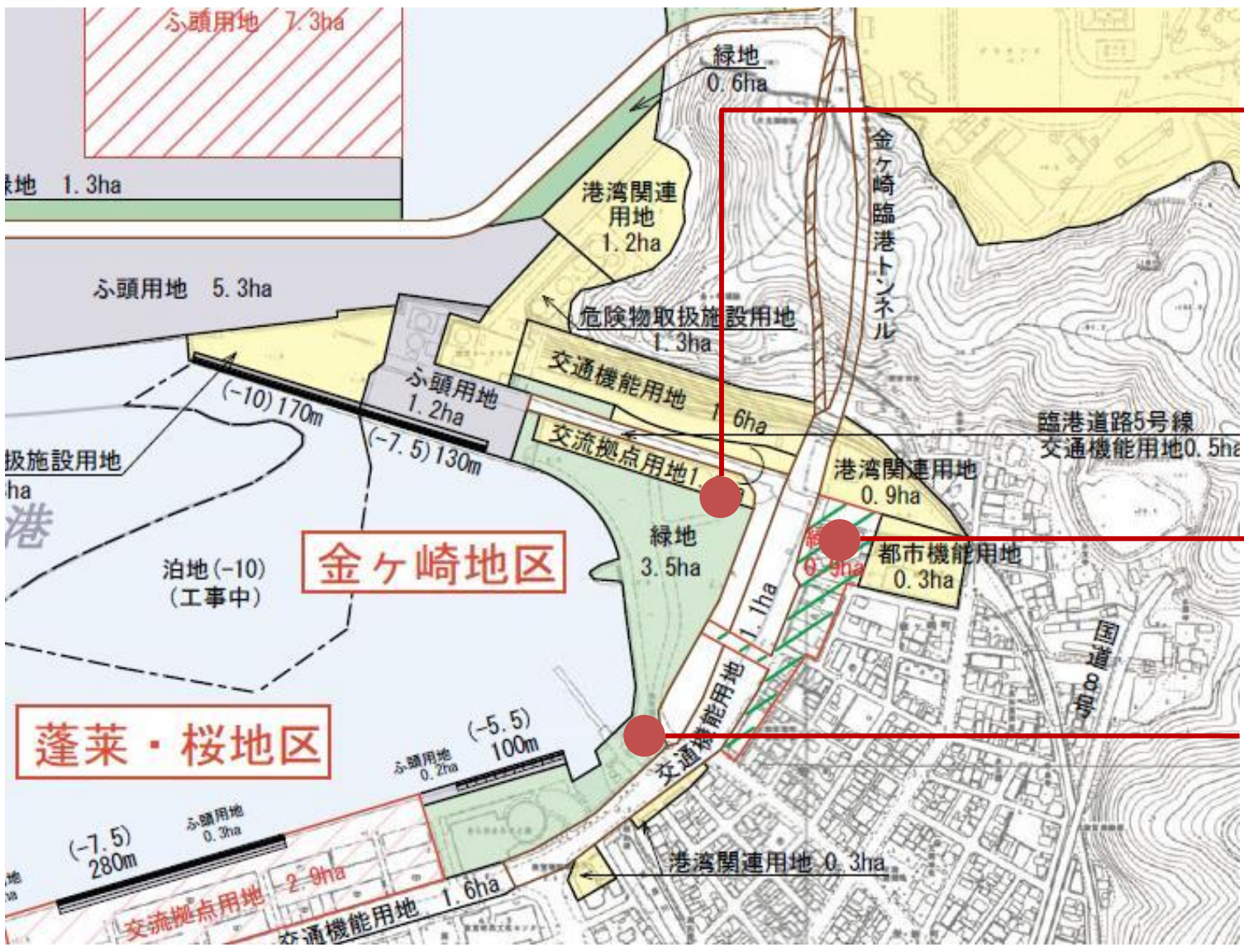
平成29年10月30日

敦賀市産業経済部新幹線まちづくり課

1. 金ヶ崎周辺地区の機能計画

1. 敷地の概要

(1) 現況図



人道の港
敦賀ムゼウム

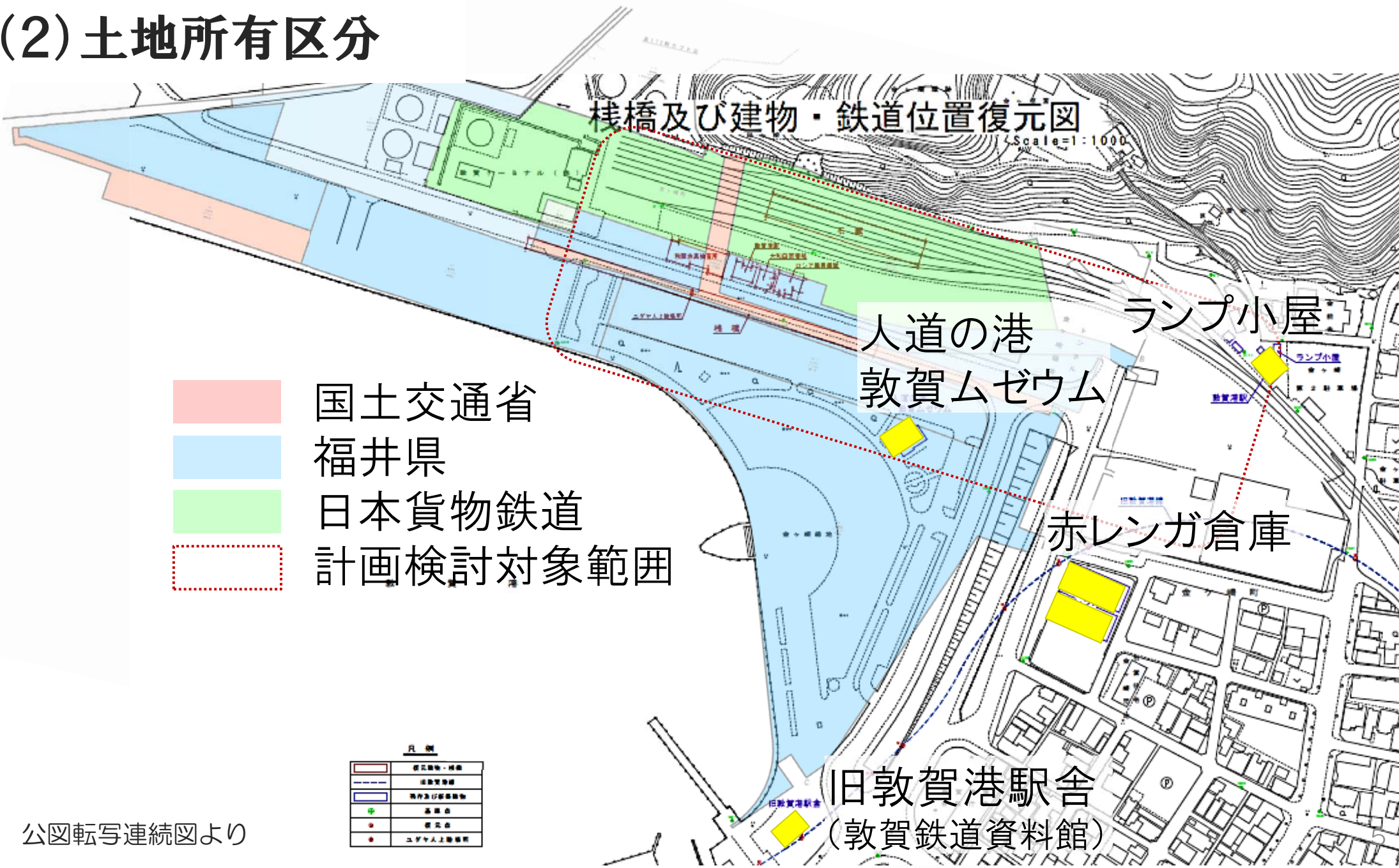
赤レンガ倉庫

旧敦賀港駅舎
(敦賀鉄道資料館)

敦賀港港湾計画図

1. 敷地の概要

(2) 土地所有区分

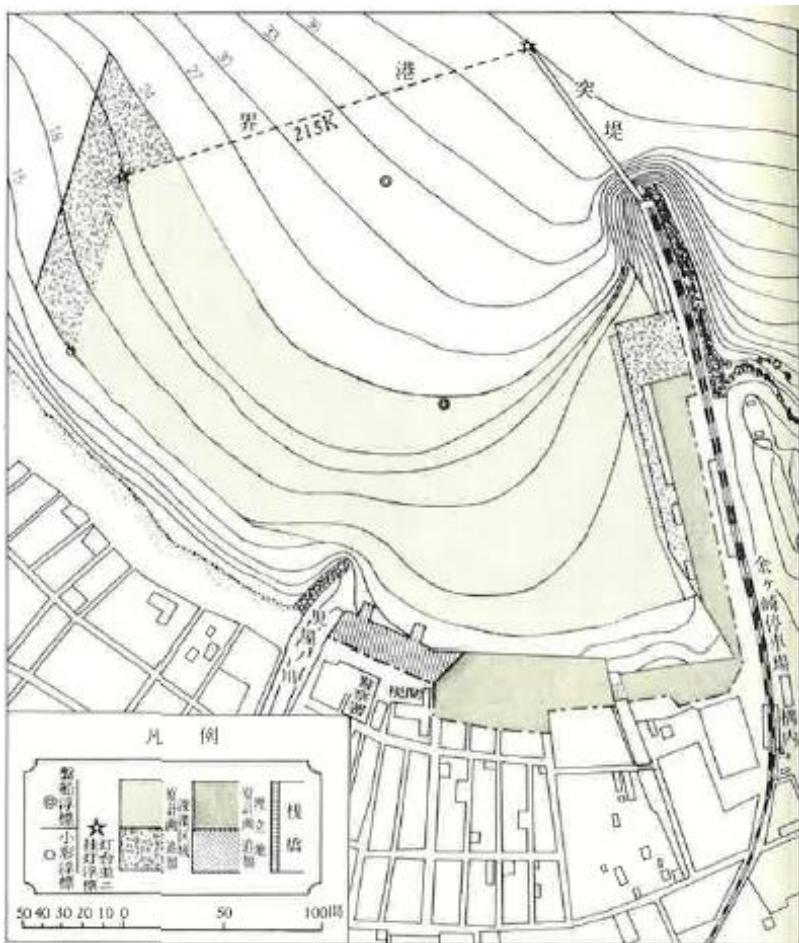


公図転写連続図より

1. 敷地の概要

(3) 海岸線の変化(大正初期)

- 大正2年に竣工した第一期港湾修築工事以後の古写真。現在では、埋め立てにより当時の景観は失われている。

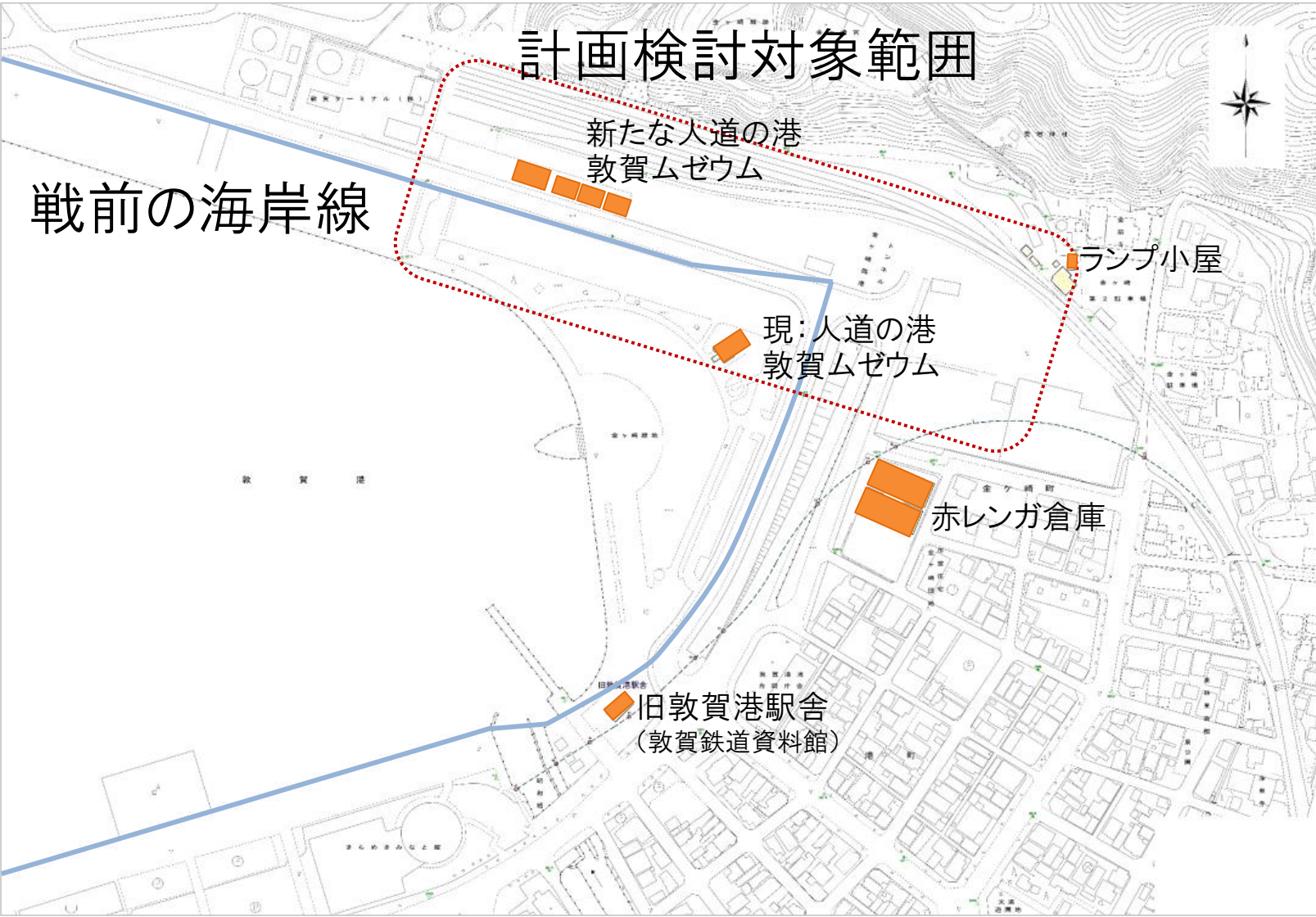


写真：大正時代の敦賀港（敦賀みなと振興会HP）

図：第一期港湾修築図（「敦賀市史 通史編下巻」）

1. 敷地の概要

(4) 海岸線の変化(現在)



2. 整備方針

古き良き雰囲気の中で、平和と博愛を考える場の提供

(1) 金ヶ崎地区全体の整備方針

- まずは地区全体を市民が気軽に利用できるようにする。
- 周辺との一体的な整備により景観を整える。
- 既存資源を活かし、それらの間を楽しく散策できるようにする。
- 古き良き敦賀を可視化するため、失われた建築物・建造物等の復元を検討する。
- ボランティアや市民団体等の活動拠点となる機能を設ける。
- バスや乗用車の駐車場を確保して観光客の利便性を高める。

2. 整備方針

古き良き雰囲気の中で、平和と博愛を考える場の提供

(2) ムゼウムの整備方針

- 平和と博愛を考える場の中心的存在として、展示や教育普及等、十分な事業活動ができる規模を検討する。
- 学習旅行等、団体観光客を十分に受け入れられるようにする。
- 赤レンガ倉庫や鉄道資料館等、地区内の既存施設と役割分担し、相乗効果を生み出せるようにする。

(3) 鉄道遺産の整備方針

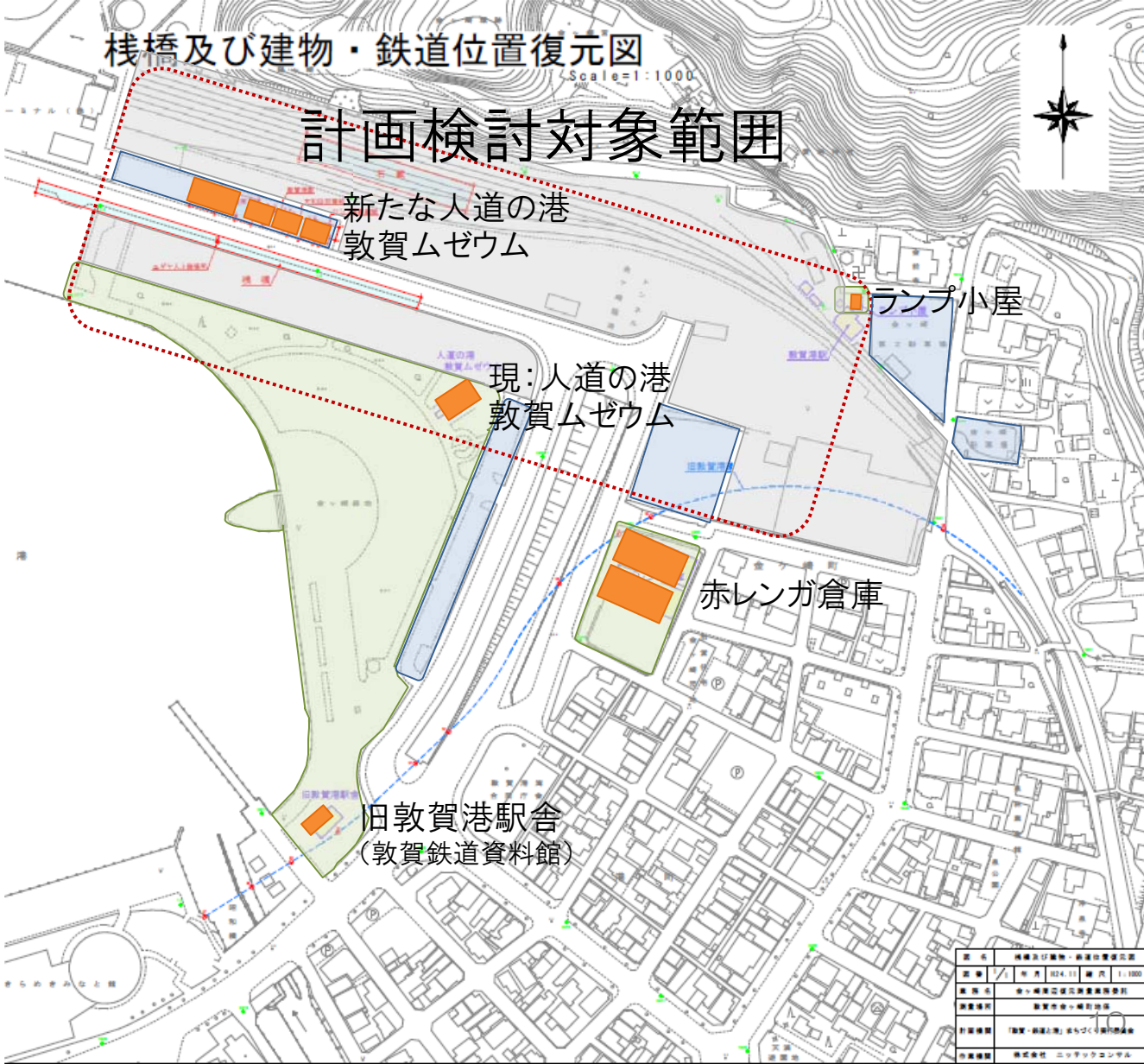
- ランプ小屋や軌道等、地区内の港線の既存設備を有効活用する。
- 敦賀駅から地区までの軌道の活用を検討し、市内の回遊性を生み出す。
- 敦賀駅の旧転車台を移転し活用する(車両展示も視野)。
- 北陸本線トンネル群等、市内外の鉄道遺産と連携できるようにする。

3. 機能構成の課題

(1) 共通事項

- 既存資源は点として存在し、線で結ばれていない。
- 各資源間は、広大な立ち入り禁止区域や道路が横たわり、徒歩で移動するには大きく迂回していく必要があり、回遊に不便（特にランプ小屋が顕著）。

■ 歩行空間
■ 駐車場
■ 立ち入り禁止



3. 機能構成の課題

(1) 共通事項

- 各資源間は、実際に歩いてみると地図で見るより遠い印象を受ける。
- 資源間を横たわる道路の存在が大きく、心理的に距離感がある。
- 徒歩でもアプローチしやすい工夫が必要。



現ムゼウム裏から赤レンガ倉庫



復元4棟予定地から現ムゼウム



ランプ小屋から現ムゼウムと復元4棟予定地

3. 機能構成の課題

(1) 共通事項

- 対象範囲の東端に位置するランプ小屋は、現状、大きく迂回しないとアプローチできない。



大きく迂回が必要



建物裏からのアプローチ



廃坑となったトンネル(未利用)²

3. 機能構成の課題

(1) 共通事項

- 復元4棟の予定地は、戦前は栈橋を挟んで海岸に接していたが、埋め立てにより海岸線が遠のいている。
- 往時の雰囲気を再現するためには、周辺の修景が必要。



道路左手が戦前の栈橋に相当



予定地の後背は山林



眺望の確保には修景が必要



現ムゼウムと距離感はない¹³

3. 機能構成の課題

(2) 個々の事項

① 現・人道の港敦賀ムゼウム

- 金ヶ崎緑地休憩所として、大和田別荘を模し福井県が設置。
- ムゼウム機能を復元4棟に拡充移設するため、今後の利活用のあり方について検討が必要。



② 敦賀赤レンガ倉庫

- 平成27年に開館し、指定管理者が運営。
- 飲食物販とノスタルジオラマ(鉄道ジオラマ)の2つの機能を活かしつつ、全体整備によって相乗効果を保つことが必要。



3. 機能構成の課題

(2) 個々の事項

③旧敦賀港駅舎(敦賀鉄道資料館)

- 敦賀港駅舎を模し、つるが・きらめき・みなと博21(平成11年)の開催時に設置。
- 復元4棟で敦賀港駅舎を復元するため、位置付けの整理が必要。



④ランプ小屋

- 現在も使われている敦賀港駅舎や、廃坑となったトンネル等、隣接する鉄道遺産とあわせた活用が必要。



4. 金ヶ崎周辺地区に必要な機能

にぎわい形成とともに、人道の港ブランドを顕在化

(1) にぎわい形成

- 敦賀の輝かしい時代の演出
- 国内外の観光客の受入とおもてなしの提供
- 国内外への広報・情報発信
- 個人旅行客への情報提供
- 地区全体で行うイベント
- カフェやショップ、多彩なアクティビティで楽しみを提供

地区全体及び鉄道遺産の
活用で担う

(2) 人道の港ブランド顕在化

- 資料の収集保存・調査研究
- 国内外の観光客へ向けた、展示・教育普及による命と平和の大切さの訴及
- 学習旅行の受入と教育普及

人道の港ムゼウムで担う

4. 金ヶ崎周辺地区に必要な機能

(3) 基本的な考え方

- まずは市民が日常的に集い、遊び、憩える場として整え、にぎわいを形成する。
- 多彩なイベントや四季折々の変化を楽しめる等、一年を通じて何度でも訪れたいようになる。
- 誰でも等しく利用できるよう、ユニバーサルデザインを導入(バリアフリー・多言語化)。
- 安心・安全に利用できるように、エリア内の視認性をはじめ、防犯・防災機能を高める。
- 物理的な距離感を縮めたり、見やすく解りやすいサインを充実させ、エリア内の回遊性を向上させる。
- 各資源の役割分担を明確にして、必要最小限で高い効果を得られるようにする。

5. 機能配置(案)

周辺の既存資源と一体的に整備し回遊性を高める

- 復元4棟を新たな人道の道ムゼウムとして整備。「人道の港」の根源として、正しく元の位置に復元する。
- 既存の金ヶ崎緑地や赤レンガ倉庫を含め、金ヶ崎地区一帯を面的に整備してエリアの一体感を形成する。



5. 機能配置(案)

周辺の既存資源と一体的に整備し回遊性を高める

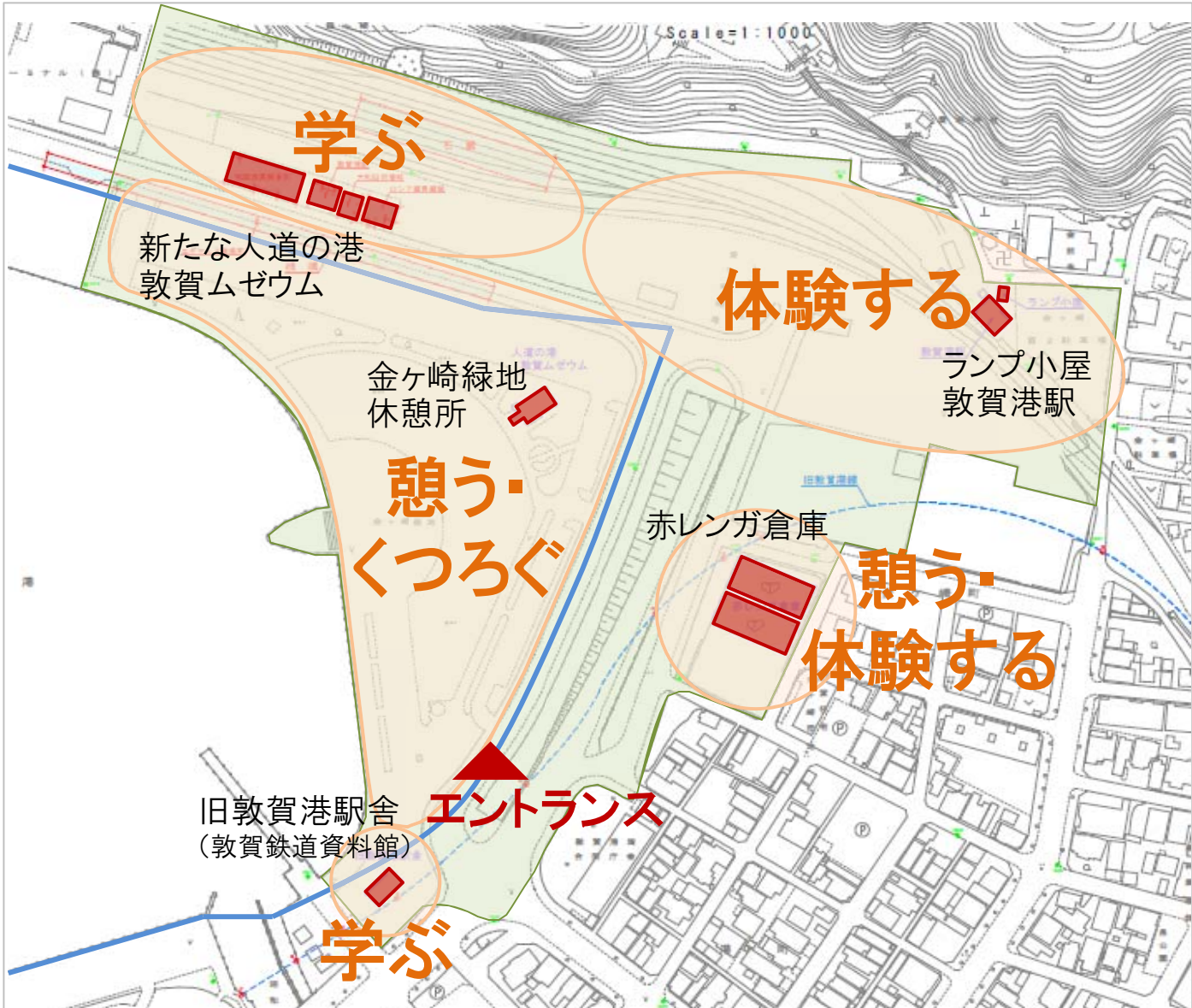
- 一体感を形成することにより、各資源がつながる。エリア全体で利用者の回遊性が高まる。



5. 機能配置(案)

各資源を中心に区画ごとに特徴化、より回遊性を高める

- 新たな人道の港ムゼウム(復元4棟)をはじめ、各資源を中心にエリア内を区分し、区画ごとに特徴を出す。
- それぞれが役割分担して回遊性をさらに高める。



6. 区画ごとの機能(案)

(1) 憩う・くつろぐ

① エントランスの役割

- 一体的に整備された金ヶ崎地区の導入の役割を担う。

② 駐車場の確保

- 訪れる利用者の利便性を確保するため、自家用車やバスの駐車場を可能な限り確保する。

③ 緑地の継続利用

- 既存の緑地は現状を維持し、市民や観光客の憩いやくつろぎの場として利用する。



統一された案内サインを整備して導入から解りやすく
(岐阜県:関ヶ原古戦場)



緑地は憩いやくつろぎの場として現状維持

6. 区画ごとの機能(案)

(1) 憩う・くつろぐ

④ 金ヶ崎緑地休憩所に必要な機能

- 本来の役割である、利用者の休憩機能、便益機能。
- 金ヶ崎周辺地区の管理機能。
- エントランスの役割を果たすための総合案内所。
- 地区全体の諸事業をサポートできる、ボランティアの拠点機能。



相談デスクや多言語のパンフ等により利便性を提供
(左: 敦賀駅観光案内所・右: 京都総合観光案内所)



地区内で行われる様々な事業のサポートを実施
(写真は観光クルーズ船のボランティア)

6. 区画ごとの機能(案)

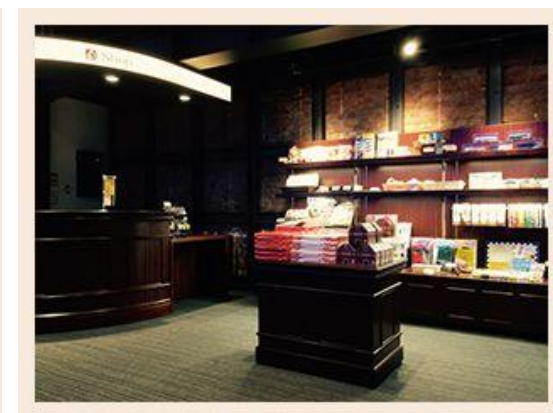
(1) 憩う・くつろぐ

⑤カフェ・ショップ機能の誘致

- 金ヶ崎地区を周遊する市民や観光客に、憩いやくつろぎを提供したり、買い物の楽しみを提供するため、民間資本の誘致を前提にカフェ・ショップ機能の設置を検討する。
- 赤レンガ倉庫の機能と重複しないように、軽食中心のメニューとしたり、ムゼウムのミュージアムショップ的な役割を担う等、商品構成等は慎重に検討していく。



海の見えるカフェ



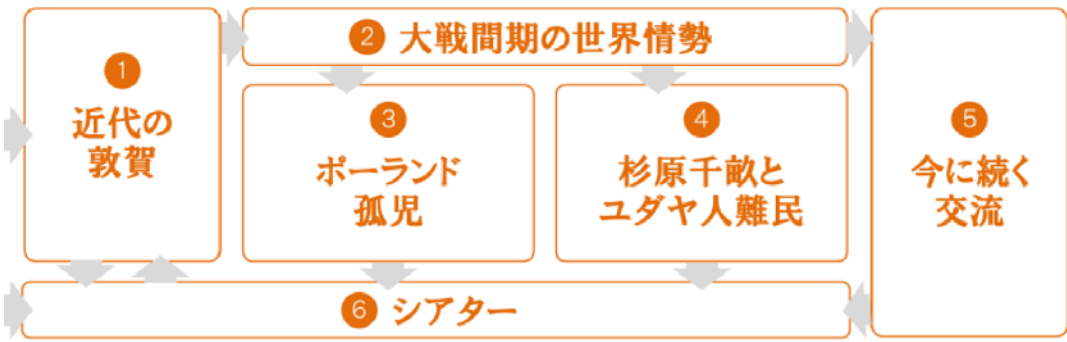
赤レンガ倉庫のショップ(赤レンガ倉庫HP)

6. 区画ごとの機能(案)

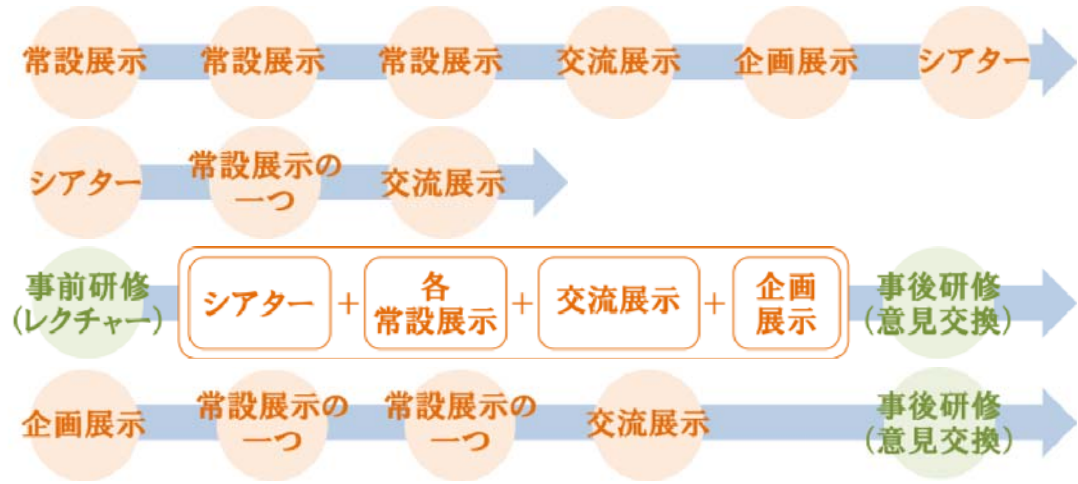
(2) 学ぶ

① 復元4棟

- 戦前の繁栄した敦賀港を彷彿とさせる景観を形成するとともに、ムゼウム機能を拡充移転する。
- 展示は基本的に現在の流れを踏襲しつつ、より解りやすく丁寧に敦賀で起きた出来事を伝える。
- 団体利用や学習利用に対応できるようにして、修学旅行等の誘致を目指す。



ムゼウムの展示構成(案)



様々な見学パターンを設定し、個人から団体まで多様なニーズに応えられるようにする

6. 区画ごとの機能(案)

(2) 学ぶ

②旧敦賀港駅舎(現:鉄道記念館)

- 当面は鉄道資料館の機能を活かして利用し、主に戦前の敦賀の鉄道史を中心に紹介していく。



旧敦賀港駅舎の展示は再編整理し、当面はランプ小屋区画との棲み分けを図っていく

6. 区画ごとの機能(案)

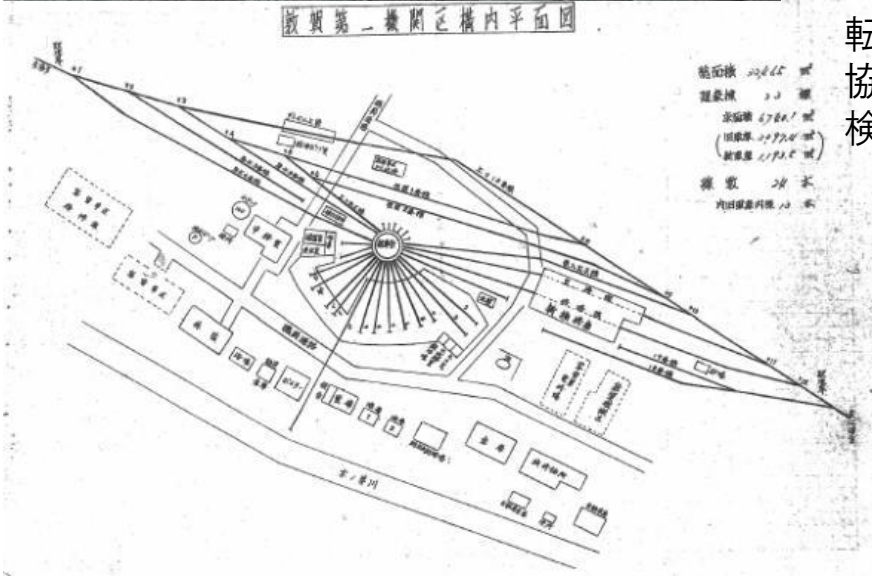
(3) 体験する

① ランプ小屋及び敦賀港駅舎

- 敦賀港駅舎(現:日本貨物鉄道所有)は修復し、ランプ小屋と併せて鉄道遺産を展示する場に。

② 転車台の活用

- 福井県が保管する敦賀駅の旧転車台は、県と協議しながら設置場所や活用方策を検討する。



転車台は県と協議しながら検討を進める

6. 区画ごとの機能(案)

(3) 体験する

③屋外の演出

- 当面は復元4棟を中心とした景観の再現に留まるが、将来的には視界に広がる範囲全体が戦前の敦賀を彷彿とさせる景観の再現を目指していく。
- ランドマークとなる印象的な建造物や、モニュメントの設置、ゆるキャラの登用等により、フォトジェニック(写真映え)な名所を構築。
- InstagramやTwitter等、SNSでムゼウムや金ヶ崎緑地が国内外に拡散していくことを目指す。



将来的には地区全体で戦前の景観の再現を目指す



福井駅恐竜広場 銀河鉄道999(敦賀市HP)



左:ツヌガくん 右:よっしー (敦賀市HP) 子ども育成プロジェクト (福井県HP) 人魚の像 (福井県HP) 水晶浜(ふくいドットコムHP)

6. 区画ごとの機能(案)

(4) 憩う・体験する

① 赤レンガ倉庫

- これまでの運営を継続させ、地区全体との連携による相乗効果で市民や観光客の利用を促進し、より一層のにぎわいと交流を形成していく。



6. 区画ごとの機能(案)

(5) 地区全体で展開する事業

① 四季折々の変化を楽しめる

- 年間を通して何度も市民や観光客に訪れてもらうため、季節に応じた催しや景観の形成により、四季の変化が感じられるようにする。



春: 金崎宮の花換え祭



夏: 敦賀湾の景観の活用



秋: 緑地(芝生広場)の活用



冬: ミライエ

6. 区画ごとの機能(案)

(5) 地区全体で展開する事業

② 日常的なイベント

- 定期的に朝市(マルシェ)を開催する等して、金ヶ崎と言えバ!と言われるような日常的なイベントを開催する。
- まずは市民が気軽に参加できるイベントを定期的に開催する。



七間朝市(大野市HP)



マルシェワンダーランド in Fukui_
越前陶芸公園(福井県HP)



福井駅恐竜広場のライトアップ
(福井県HP)



美浜の水中綱引き(福井県HP)

6. 区画ごとの機能(案)

(5) 地区全体で展開する事業

③ 非日常的なイベント

- つるが「鉄道と港」フェスティバルやミライエに加え、多彩な非日常的なイベントを次々に展開し、金ヶ崎地区ではいつも何か行われていることを、国内外に広めていく。



例えば、敦賀祭りの巡行ルートとして区内を巡る



宇波西神社で奉納される王の舞
国選択無形民俗文化財(福井県HP)



満月会の月光ヨガ(福井県HP)



夜間の幻想的なイベント(松原海岸のとうろう流し)

7. 周辺の鉄道遺産・港湾遺産との連携

- 眼鏡橋や北陸本線トンネル群等、敦賀市内の遺産を巡るツアー等により市内の回遊性を高める。
- 今庄方面や、長浜方面等との鉄道遺産と連携した広域連携イベント等を今後検討していく。



8. 新たに入手予定の資料の活用

- 平成27年に運行を終了したトワイライトエクスプレスについて、JR西日本と部品譲渡を交渉中。
- 牽引車は敦賀地域鉄道部の所属車両で、敦賀に縁が深い。
- 鉄道ファンをはじめ多くの人々に人気があることから、これを有効活用して話題を高める。
- 鉄道資料館での展示や、カフェやレストランへの活用等を今後検討していく。

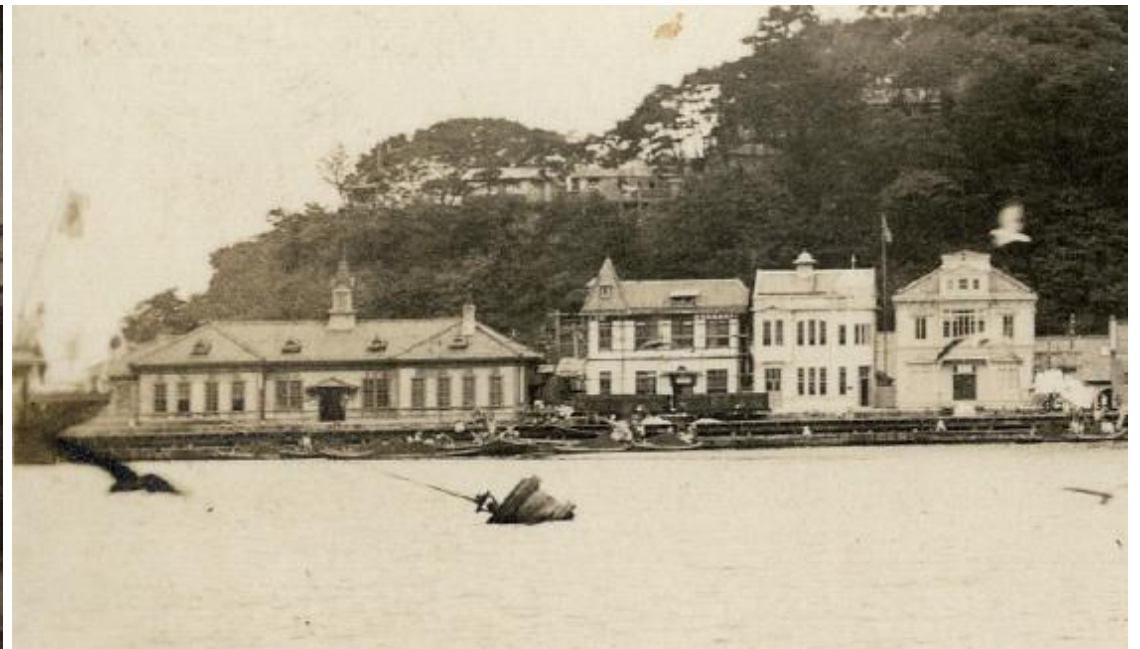


2. ムゼウムの機能計画

1. 配置計画

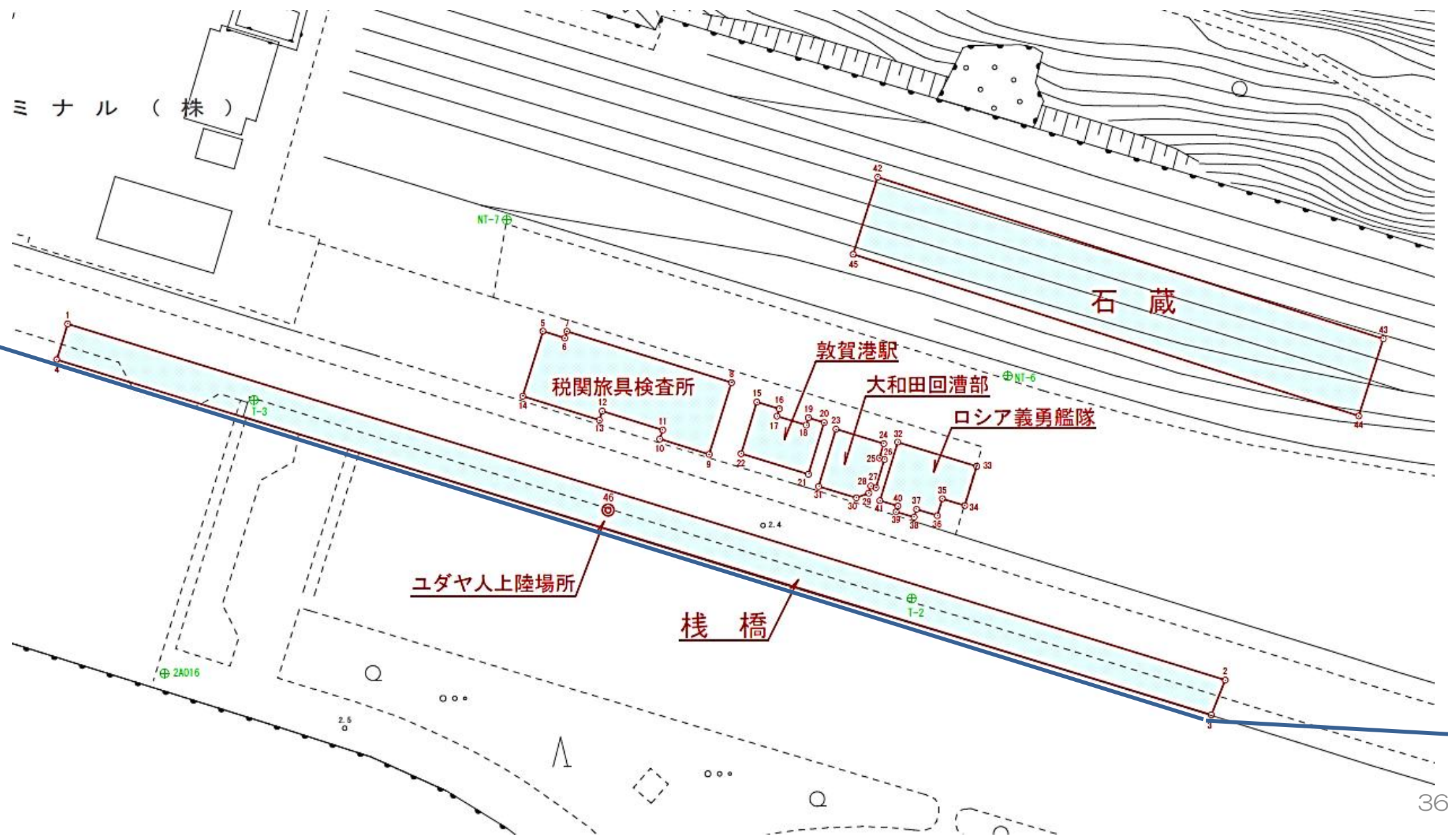
(1) 往時の4棟

- 敦賀の最も輝かしい時代を可視化するため、大正～昭和初期頃の敦賀港棧橋周辺の景観を再現する。
- 当面は建造物4棟を中心に、将来的に周囲の景観復元を検討。



1. 配置計画

(2) 復元4棟の配置計画



1. 配置計画

(3) 復元4棟のイメージ

- 埋め立てにより当時の棧橋から先は芝生化されているため、昔の棧橋の雰囲気再現しにくいことに留意。
- 建物復元だけでは演出不足で、往時の雰囲気が再現しにくい。



※当時の棧橋より海岸線までは埋め立てにより、
現在は芝生化していることに留意



1. 配置計画

(4) 復元4棟の面積(表)

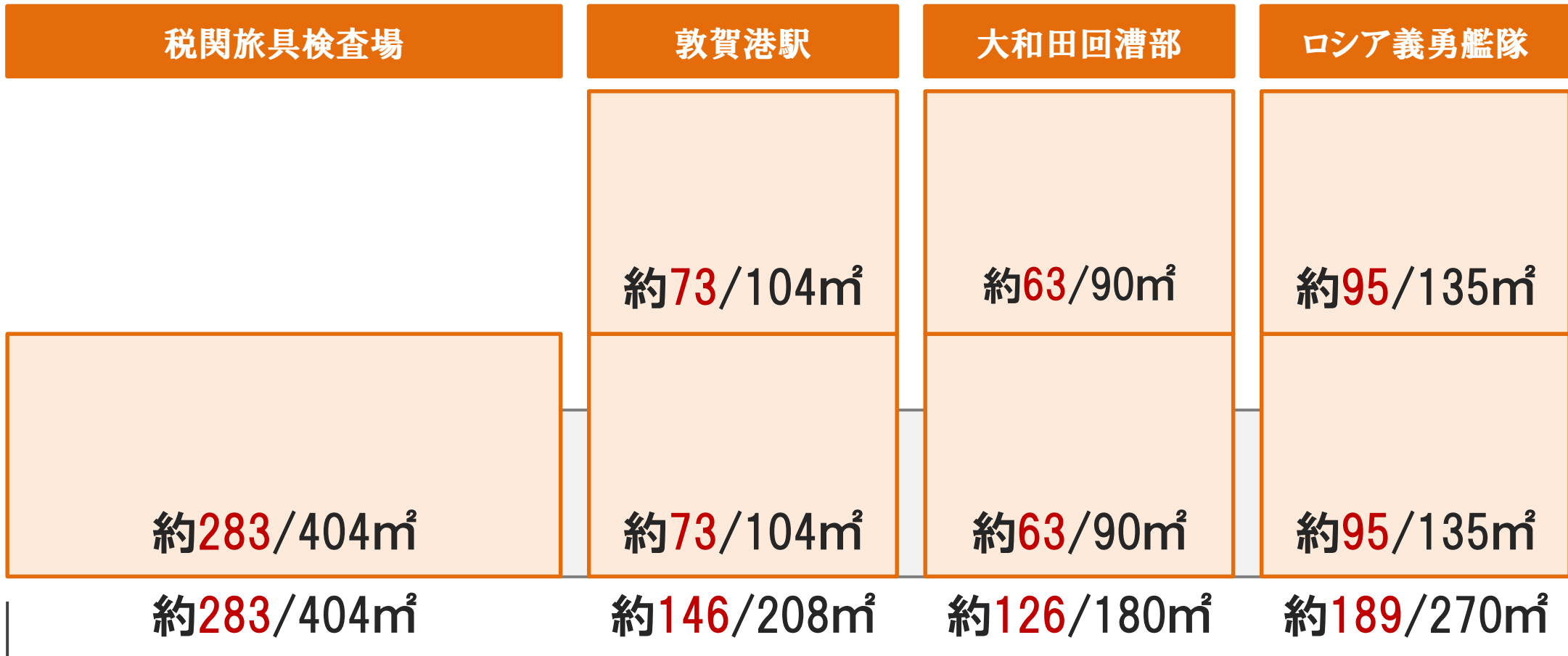
建築物	建物面積	階層	延床面積	有効面積
税関旅具検査場	約404m ²	1階	約404m ²	約283m ²
敦賀港駅	約104m ²	2階	約208m ²	約146m ²
大和田回漕部	約90m ²	2階	約180m ²	約126m ²
ロシア義勇艦隊	約135m ²	2階	約270m ²	約189m ²
合計	約733m ²	—	約1,062m ²	約743m ²

- 建物面積は、測量に基づく想定値。設計によって若干の誤差が出る可能性があることに留意。
- 有効面積は、共用部(通路・倉庫・設備スペース等)を除いた、実質的に利用できる面積。延床面積の約7割で設定。

1. 配置計画

(5) 復元4棟の面積(図)

- 現ムゼウムの延床面積278㎡、展示面積177㎡に対し、復元4棟の規模はおよそ3.8倍となる。

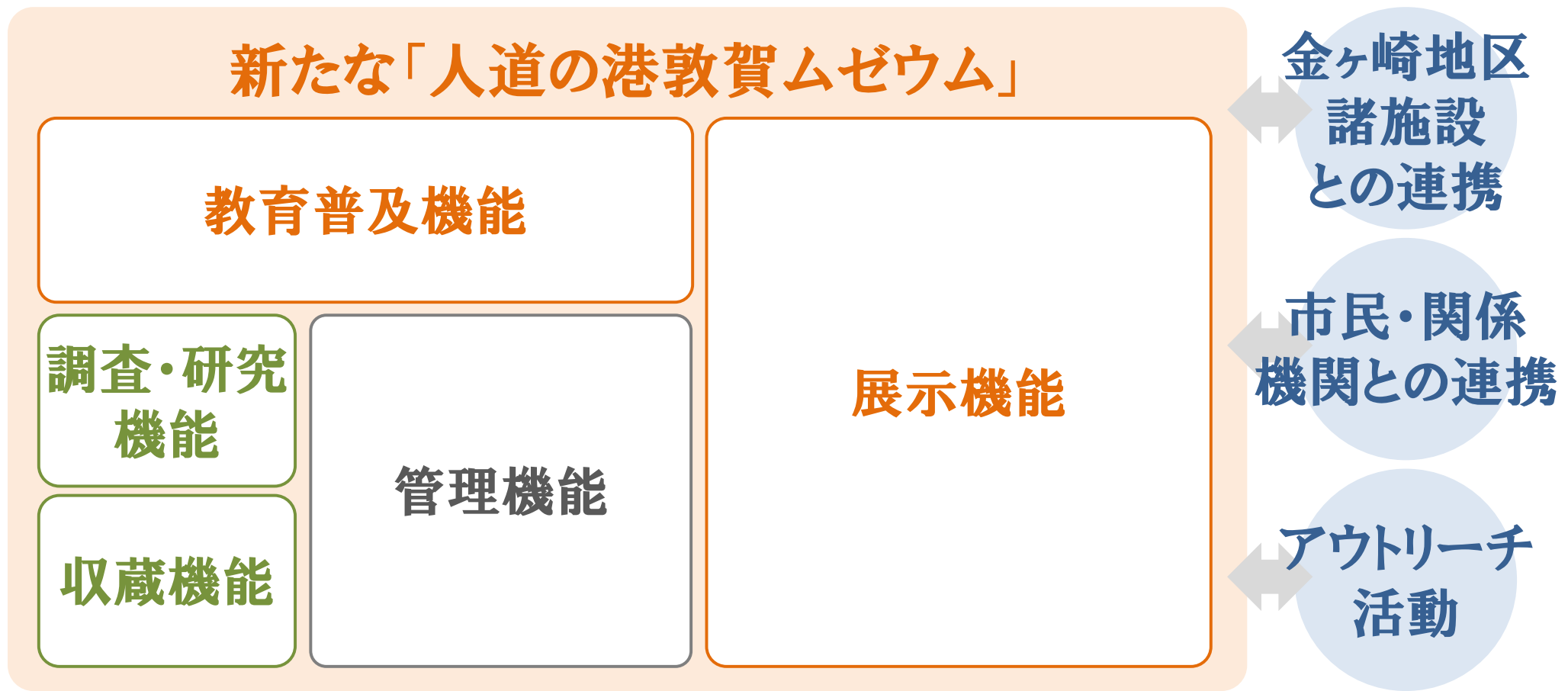


有効面積計: 約743㎡ / 延床面積計: 約1062㎡

2. ムゼウムの機能

(1) ムゼウムに必要な機能

- 主に展示機能に限定されている現在の機能を拡充し、諸事業の実現に十分な機能を確保する。



2. ムゼウムの機能

(2) 基本条件

- 主に展示機能に限定されている現在の機能を拡充し、諸事業の実現に十分な機能を確保。
- 団体見学者が余裕を持って利用できる広さを確保。
(1団体40人≒団体バス約1台分/学校1クラス+ α 分で設定)
- 団体がストレスフリーで見学できる展示諸室、シアター。
- 団体が利用できる研修室(教育普及機能)。
- 往時を偲ぶための眺望の機能。
- 資料の受入や保存、調査研究ができる収蔵・調査研究スペース。
- 事業活動や維持管理に必要な管理機能(事務スペース)。

2. ムゼウムの機能

(3) 収蔵機能（収蔵機能と調査研究機能で想定面積約81㎡）

- 資料の形態や状態に応じて適切な環境で保存し、使いやすく整理できる収蔵庫を設ける。
- 環境の変化に脆弱な資料のため、恒湿の環境を整える。
- 資料や情報は将来的に増加することに留意する。

(4) 調査・研究機能

- ポーランド孤児やユダヤ人難民、敦賀の港湾史・鉄道史等の調査・研究に必要な作業スペースを確保し、備品等を整える。
- 市立博物館との機能分担や連携に留意する。

2. ムゼウムの機能

(5) 展示機能

①常設展示（常設展示3室各57㎡で想定面積計：約171㎡）

- 現在の展示構成を踏襲しつつ拡充し、近代の敦賀の港湾や鉄道に関する情報や、ポーランド孤児、ユダヤ人難民、杉原千畝に関する情報や資料を展示する。

②交流展示（1室で想定面積計：約57㎡）

- ポーランド孤児・ユダヤ人難民その人、或いは遺族から政府関係者等、関連する人たちと敦賀の交流を展示する。活動を通し、発展拡張させていく。

③企画展示（1室で想定面積計：約57㎡）

- 特定のテーマを掘り下げ、敦賀市や関連諸機関の資料や情報を一定期間展示する。

2. ムゼウムの機能

(5) 展示機能

④シアター (想定面積約85㎡)

- 学習旅行や団体旅行等の大人数の利用者へ、同時に等しく情報が伝えられるように、映像コンテンツを上映できるシアターを設ける。複数のコンテンツを提供する。

⑤眺望 (設ける場合は他の機能へ兼ねさせる)

- 現在の敦賀港と、古き良き敦賀を眺望できる機能を設ける。

⑥屋外展示

- ユダヤ人上陸の場所をはじめ、歴史の舞台となった場所にはサインやアプリによって情報が得られるようにする。自撮りの名所としてSNS等で拡散できるようにする。
- 郊外の鉄道遺産等、ここを起点に市内全域を巡れるようなしかけを整える。

2. ムゼウムの機能

(6) 教育普及機能 (想定面積約95㎡)

- 講座や講演、ミニイベント等が行えるスペースを設ける。
- 学習利用や団体旅行の利用客を収容できることに留意する。
- 学習利用や団体旅行の利用者が離合集散できる場所を設ける。
- 学習利用時、雨天でもお弁当が食べられる場所を設ける。

(7) 管理機能 (想定面積約100㎡)

- ムゼウムの管理運営に必要な、スタッフが活動しやすい規模を確保する。
- ムゼウムの広報・情報発信に関する業務を行う。

2. ムゼウムの機能

(8) 必要面積の概念 (図)

復元4棟:延床面積約1062m²

有効面積約743m² (設定)

諸機能に必要な面積:約646m² (設定)

教育普及機能

約95m²

調査・研究収蔵機能

約81m²

管理機能

約100m²

展示機能

小計:約370m²

(内訳)

常設展示:

57m²×3室=約171m²

交流展示:約57m²

企画展示:約57m²

シアター:約85m²

共用部面積
約319m² (設定)

- 建物に必要なその他の機能(通路、階段、ELV、トイレ、倉庫、機械室、PS等)。
- 延床面積のうち、約30%で設定。

3. 展示構成の検討

(1) 現ムゼウムの展示構成

2F



1 "東洋への波止場"大陸への玄関・敦賀港
(1) 敦賀港のむかし
-1 江戸時代以前の敦賀港
-2 近世以降の敦賀港
(2) 敦賀港を通った人々
-1 外国人
-2 日本人
(3) 敦賀港を通った船と貨物
-1 大陸貿易主要貨物
-2 昭和の連絡船から
2 欧亜国際連絡列車
(1) シベリア鉄道
(2) シベリア鉄道と敦賀

3 ポーランド孤児
(1) 寒風吹きすさぶシベリアの荒野を飢餓と闘いながら放浪を余儀なくされた。
-1 敦賀に上陸した孤児たち
-2 シベリアの孤児たちの惨状
-3 孤児たちを救う人々
-4 孤児たちを迎える準備
(2) 浦塩ヨリ当港ニ上陸シタルニ付菓子・絵葉書等ヲ贈リ亦宿舍ノ斡旋等一行ノ慰撫ニ努メタリ
-1 さらに助け出される孤児たち
-2 受け入れする敦賀の人たち
-3 記憶と記録が残る敦賀
-4 敦賀から東京、大阪へ
(3) 看護婦さんは、私の頭を優しく撫で、キスをしてくれました。それまで人に優しくされたことがありませんでした。
-1 孤児たちの状況
-2 日本での生活
-3 悲しい出来事
(4) 惜別
(5) 感謝

1F



4 ユダヤ人難民
(1) ナチスに追われ命がけで逃げてきた ヨーロッパには安住できる所がどこにもない
(2) ツルガの町が天国に見えた 私たちは、何百年経とうと決して敦賀を忘れない
(3) 手に入れた自由と平和
(4) 「人道の港」市民の証言
(5) 奇跡の時計
(6) 命のビザ
5 杉原千畝コーナー
(1) 苦慮、煩悶の挙句、私はついに人道、博愛精神第一という結論を得た
杉原千畝の略歴
杉原千畝の決断
書き続けた命のビザ
外務省に残る発給記録
敦賀に上陸した難民の数
(2) 覚悟の決断
6 交流コーナー
(1) 「人道の港敦賀」の交流
(2) 来館者メッセージボード

3 . 展示構成の検討

(2) 展示構成上の課題

① 共通事項 (主にスペース)

- 主な展示室の2階へは階段利用が主となるため、**車いす利用者の見学に不便**を生じる。
- **全体に手狭**で、各コーナーに団体が入りきらない。展示解説を十分に行うことができない。
- **シアター**(杉原千畝コーナー)を団体で見ようとすると**半数は立ち見**となる。
- 構造上、最後まで見学した後、同じ動線を通して引き返さなくてはならない。流れが分断される。

② 個々の事項

- 欧亜国際列車は**階段で解説**。じっくりと見にくい。
- ポーランド孤児、ユダヤ人難民ともに、時代背景がやや説明不足。
- 動線上、**ユダヤ人難民の次に杉原千畝が解説**される。時系列的には逆。
- 2階で展示展開が途切れるため、**交流コーナーへのつながりが希薄**。気づかない人もいるのでは。

3. 展示構成の検討

(2) 展示構成上の課題

③ 展示を構成するためのバックヤード

- 収納スペース等が限界に達しているため、資料等の寄贈の申し出があっても受け入れられないことがある。
- 展示室が小さく、開館以後に寄贈頂いた資料を活かした展示更新が十分に行えていない。
- 現体制は学芸員が不在。
- 資料や情報の収集・保存・調査・研究といった、ムゼウムの活動の基盤となる事業のためには専門的知見を持った技術職が必要。
- 現体制では、専門的知見を通じた活動や展示更新が行えない状況。

3. 展示構成の検討

(3) 基本的な考え方

- 誰でも等しく利用できるようにユニバーサルデザインの考え方を導入(バリアフリー・多言語化)
- 各コーナーは、団体一組が余裕を持って見学や展示解説を受けられるようにする。
- スムーズな動線でストーリーに連続性を持たせる。
- 時系列で解りやすく伝える。
- 基本的に1室1コーナーで解りやすくテンポ良く伝える。
- 空間を象徴するような大型資料調達の見込みが難しいので、テーマを象徴するモノ・コトによる演出が必要。
- ついで利用等、関心の薄い見学者へも概略が理解できるように。

3. 展示構成の検討

(4) 新たな構成の概念(案)

当時の時代背景から、現在のつながりまでを一連の流れで示す

- 基本的には現在の流れを踏襲しつつ、より解りやすく補完。
- 命と平和のメッセージが解りやすく伝わるようにする。

何故、敦賀に 来たのか

- 戦前の敦賀が、ヨーロッパとの交通の拠点として、国内有数の国際港であった背景をより詳しく理解する。

当時、何が 起きていたのか

- 大量の難民が発生した背景に、二つの世界大戦の間の不安定な国際情勢が背景にあったことを詳しく知る。

それから どうなったのか

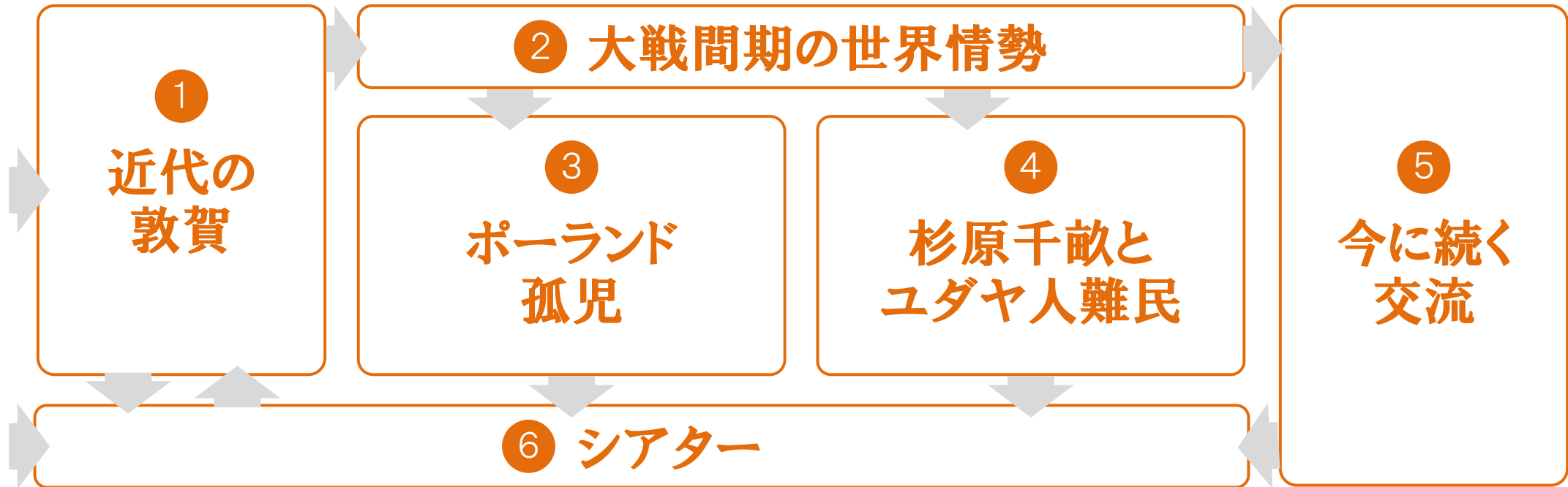
- 敦賀へ来港した後、孤児やユダヤ人たちは、その後国内外でどのような軌跡を辿ったのかをより詳しく知る。

今現在は どうなのか

- 敦賀を通過した人たち、或いはその子孫はどうしているか。現在の敦賀市との交流を今以上に顕在化させる。

3. 展示構成の検討

(5) 新たな展示構成(案)



- 物語の背景となる、近代日本における敦賀の重要性や、時代背景(大戦間期)を綿密に伝える。
- 主導線とシアターは分け、どちらかだけ見ても理解できるように。

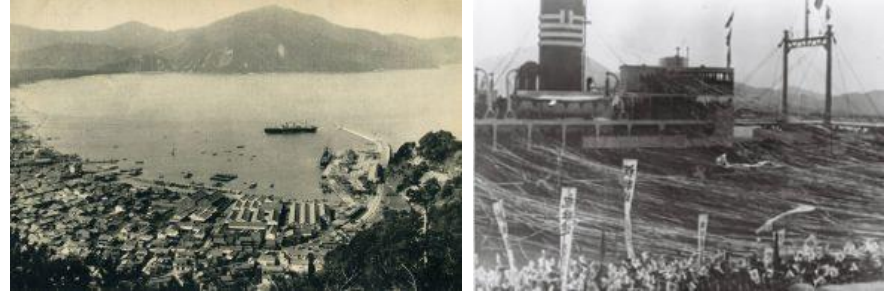
- 全体を統括する印象的な展示や環境演出を検討する。
- 杉原千畝とユダヤ人難民は時系列で解説する。
- 当事者や子孫、関係国要人等との交流を丁寧に伝える。

4. 各コーナーの展開内容(案)

(1) 近代の敦賀

① 伝達内容

- 基本的に現在の内容を踏襲し、団体が見やすいように拡充する。
- 古代から交流・交易の拠点だった敦賀の**地理的要因**を強調。
- 近代の国策によって整備された鉄道・港湾設備と、**日本における当時の敦賀の重要性**を特に**強調**する。
- 欧亜国際連絡列車とシベリア鉄道で、**敦賀を通し東京から欧州**が**つながっていた**ことを**強調**する。



新たな資料・情報の連携先
敦賀市各部局・市立博物館、国会図書館・国立公文書館、県立図書館等

4. 各コーナーの展開内容(案)

(1) 近代の敦賀

② 主な資料・情報

- 現状は、敦賀を通過した人々や港灣風景、連絡船の古写真、古絵図等。
- 新たな資料候補として、例えば港灣遺産、鉄道遺産、欧亜国際連絡列車関係の実物資料等が考えられる。

新たな資料・情報の連携先

敦賀市各部局・市立博物館、国会図書館・国立公文書館、県立図書館等

③ 検討事項

- 近代の敦賀を象徴するモノ・コトの選定
→例：立石岬灯台や北陸トンネル群の資料、欧亜国際連絡列車の資料等
- 敦賀が港灣都市として繁栄するベースとなった古代～近世の展示ボリュームをどの程度扱うか。
- 市立博物館、赤レンガ館(ジオラマ)との棲み分け。

4. 各コーナーの展開内容(案)

(2) 大戦間期の世界情勢

① 伝達内容

- ポーランド孤児とユダヤ人難民、**二つの事件が起きた原因を深く理解するため、大戦間期の世界情勢を詳しく理解する。**
- 欧州の疲弊と復興、ロシア革命やファシズムの台頭等による不安定な時代を知る。

年	主な出来事
1914	第一次世界大戦(～18)
1917	ロシア革命
1919	ヴェルサイユ条約調印
1920	国際連盟成立
1920.22	ポーランド孤児上陸
1923	関東大震災
1929	世界恐慌(～32)
1930	ロンドン軍縮条約
1931	満州事変
1933	独:ヒトラー独裁、米:ニューディール政策
1937	日中戦争勃発
1939	第二次世界大戦勃発(～45)
1940	ユダヤ人難民上陸(～41)
1941	太平洋戦争(～45)

4. 各コーナーの展開内容(案)

(2) 大戦間期の世界情勢

② 主な資料・情報

- 現状は、ポーランド孤児とユダヤ人難民に付随する内容。
- 敦賀市では関連資料を所有していない。
- 資料候補は基本的に当時の世相を反映する写真・絵図等の版權類が中心か。

③ 検討事項

- 当時の世界情勢を象徴するモノ・コトの選定
→例:ロシア革命、世界恐慌、ナチスの台頭等、当時の写真
- 大戦間期の情勢は、一連の流れを説明した方が解りやすい。
- 従来通り、ポーランド孤児、ユダヤ人難民ごとに背景を紹介するのであれば本コーナーは不要。

新たな資料・情報の連携先

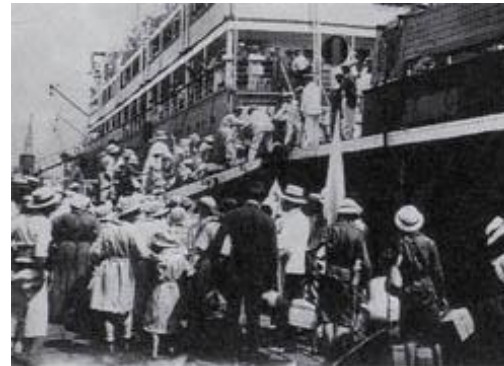
近代史を扱う各出版社、研究者(監修者)、国会図書館・国立公文書館等

4. 各コーナーの展開内容(案)

(3) ポーランド孤児

① 伝達内容

- 基本的に現在の内容を踏襲し、団体が見やすいように拡充する。
- 世界から見捨てられようとしていた孤児を、日本赤十字社が自ら手をさしのべた事を強調する。
- 敦賀から移動した孤児たちが、国内でどの様に過ごしていたのかを知る。
- 国外へ脱出した孤児たちが、その後どのような経緯を辿ったのかを知る。



4. 各コーナーの展開内容(案)

(3) ポーランド孤児

② 主な資料・情報

- 現状は、主に日本赤十字社や個人が提供した写真や事務報告等のレプリカで構成。
- 新たな資料候補として、福田会が所蔵する写真や新聞記事。松本照男氏が所有する孤児の物品や書籍等。(いずれも今後要交渉)。

新たな資料・情報の連携先

日本赤十字社、福田会(孤児たち滞在した施設)、松本照男氏(ジャーナリスト)、ポーランド大使館等

③ 検討事項

- ポーランド孤児を象徴するモノ・コトの選定
→例:赤十字章、市民が差し入れた菓子・果物等
- 新資料・情報の収集が特に難しいと推測される。新展開は福田会や松本照男氏への照会と交渉次第か。
- 一連の事象を早わかりできる短編のコンテンツ制作も視野。

4. 各コーナーの展開内容(案)

(4) 杉原千畝とユダヤ人難民

①伝達内容

- 現在、分かれている千畝と難民のコーナーは時系列で扱いあわせて紹介。
- 世界中が見捨てようとしていたユダヤ人難民を、ナチスの干渉に屈せず、国として弱者を救おうとした事を強調する。
- 樋口季一郎をはじめ、多くの人々が救おうとしたことも紹介。
- 敦賀から移動した後、難民たちがどんな経過を辿ったのかをより詳しく紹介。



4. 各コーナーの展開内容(案)

(4) 杉原千畝とユダヤ人難民

② 主な資料・情報

- 現状、ユダヤ人難民は、時計やビザの複製、写真、市民の証言で構成。
- 杉原千畝は、シアターコンテンツやビザリストの複製等で構成。
- 未展示資料に、パスポートや手記等の書類が複数存在。

新たな資料・情報の連携先

難民の家族や子孫、神戸市・神戸市文書館、鎌倉市(千畝の没地)、ホロコースト記念館(福山市)、関係国の大使館、海外の関連ミュージアム等

③ 検討事項

- 杉原千畝・ユダヤ人難民を象徴するモノ・コトの選定
→例: リトアニア領事館の室内再現等(但し、八百津町でも再現)
- ストーリー的には同系列で扱うが、展示の中心となる内容のため、2コーナーとして扱うか(シアターは別室を設ける)。
- 市民の証言は貴重なデータとなるため、顕在化が必要か。
- 連携先候補への照会、未展示資料活用は積極的に行う。

4. 各コーナーの展開内容(案)

(5) 今に続く交流

① 伝達内容

- 敦賀を經由し、生き延びた人たちが、昔も今も、そしてこれからも感謝していることを知る。
- ポーランドやイスラエル等、国や組織からの表彰や感謝を紹介。
- 本人や家族、子孫等からの感謝の気持ちを紹介。
- 敦賀から情報を発信し、交流を続け、その証を紹介する。
- 関連自治体や団体と連携してその成果を紹介する。



4. 各コーナーの展開内容(案)

(5) 今に続く交流

② 主な資料・情報

- 勲章や記念切手、レリーフ、書籍等、比較的資料は多い。また、未公開の家族写真等も存在。
- 開館後に贈られたパスポートや物品等も存在するが、これらはユダヤ人難民コーナーで展示か。

③ 検討事項

- 家族や遺族の方々の交流を通すことによって、今後も資料や情報が増えていくことを念頭に置く。
- 交流の手法等について要検討。
- 関連自治体と情報交換し、その成果を、例えば、共同開催の巡回展にする等、連携のしくみを確立する。

新たな資料・情報の連携先

難民の家族や子孫、八百津町・名古屋市等の関連自治体、関係国の大使館等

4. 各コーナーの展開内容(案)

(6)シアター

①伝達内容

- シアター機能は拡充し、**団体＋ α** が余裕を持って鑑賞できるようにする。
- コンテンツは**テーマごとに複数用意**して、見学者のニーズに応じて見られるようにする。
- **研修室にもシアター機能**を設け、複数の団体が同時にコンテンツを鑑賞できるようにする。



シアター参考例：龍谷ミュージアム



4. 各コーナーの展開内容(案)

(6) シアター

② 主な資料・情報

- 現状は、ヘブンと呼ばれ、遙かな記憶、繋がれた命他、7本のコンテンツを放映。製作年代は、2008～17年。
- 杉原千畝関係は、NHK等により度々取り上げられているため、それらを活用することは考えられる。

新たな資料・情報の連携先

既存コンテンツ制作の放送局(福井テレビ)、NHK等関連コンテンツ制作実績のある放送局、前項に掲出の関係者等

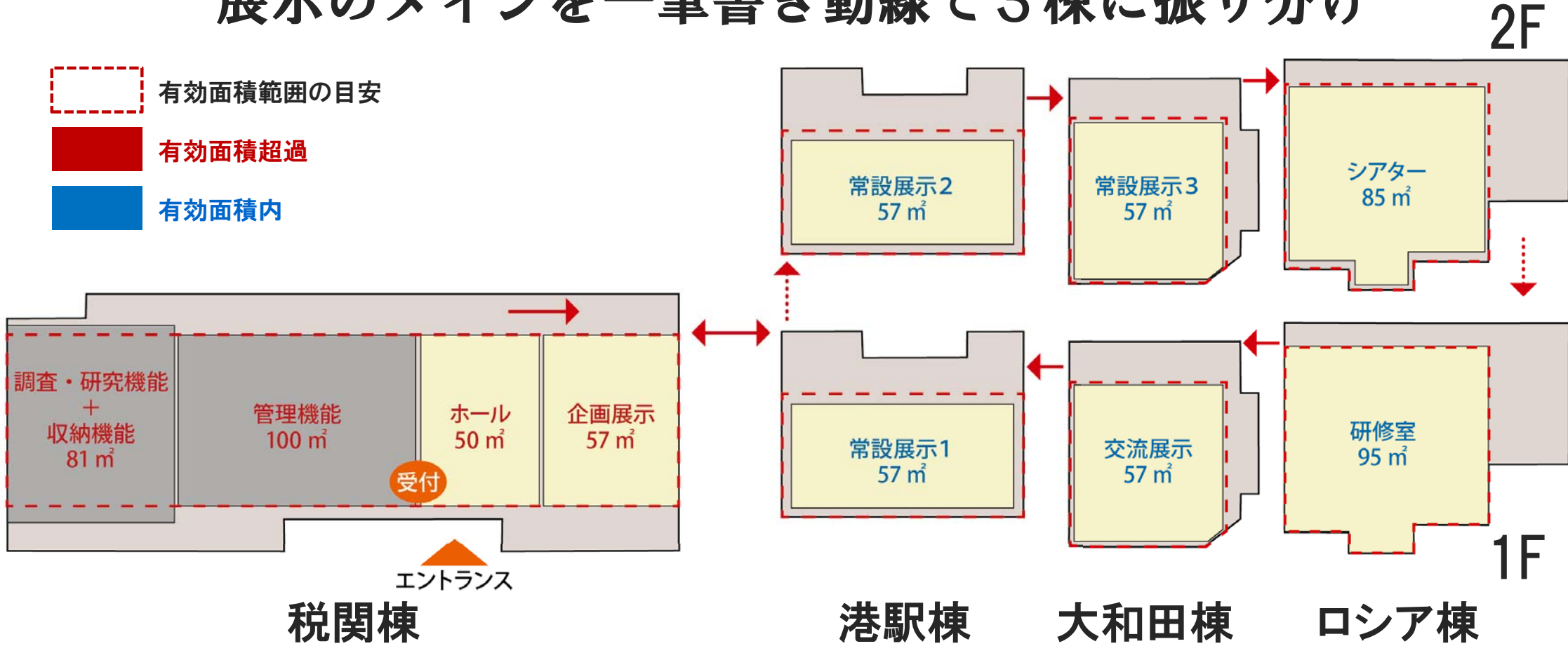
③ 検討事項

- 敦賀で起きた2つの事象やその軌跡を総括的に扱うコンテンツの製作。
- 杉原千畝とユダヤ人難民を扱う新たなコンテンツの製作。
- ポーランド孤児を扱う新たなコンテンツの製作。
- 現在・未来への交流を扱う新たなコンテンツの製作。

5. 機能構成(案)

(案1) 税関棟をエントランスに
展示のメインを一筆書き動線で3棟に振り分け

- 有効面積範囲の目安
- 有効面積超過
- 有効面積内



5. 機能構成(案)

(案1)

① メリット





- 調査研究機能と管理機能が隣接することで職員をひとかたまりに配置でき、運営しやすい。

② デメリット

- シアターや研修室を利用したの団体見学は動線が交錯する。

※各案は、延床面積を100%、うち共用部30%、有効面積70%で仮設定。やや面積不足の場合は建築設計で機能・レイアウトを工夫する。

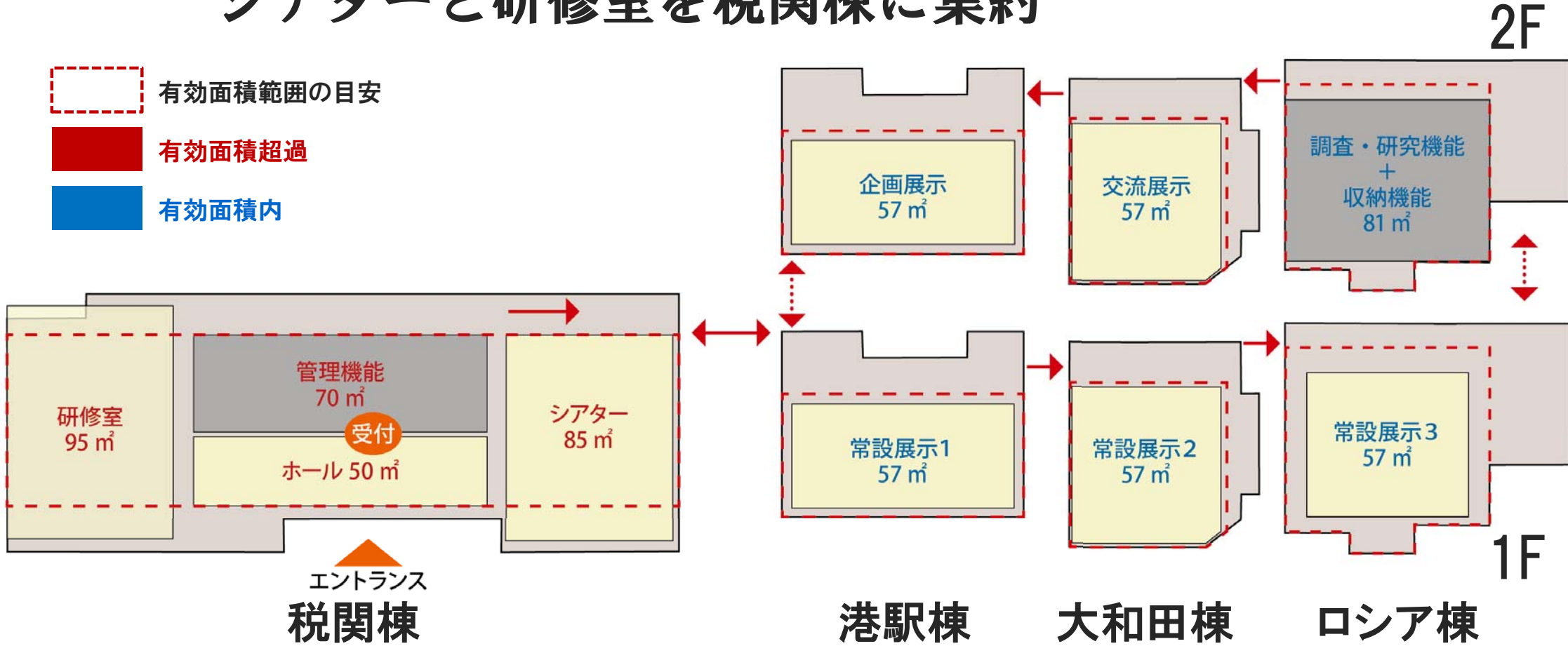
③ 面積の仮設定

税関棟	 <p>建物面積合計:404㎡ 有効面積:283㎡ 各機能の面積:合計288㎡ ※有効面積の不足は約2%程度、レイアウトの工夫で実現は可能。</p>
港駅棟	 <p>建物面積合計:208㎡(1F/104㎡ 2F/104㎡) 有効面積合計:146㎡(1F・2F 各73㎡) 各機能の面積合計:114㎡ 1F/常設展示57㎡ 2F/常設展示57㎡</p>
大和田棟	 <p>建物面積合計:180㎡(1F/90㎡ 2F/90㎡) 有効面積合計:126㎡(1F・2F 各63㎡) 各機能の面積:114㎡ 1F/交流展示57㎡ 2F/常設展示57㎡</p>
ロシア棟	 <p>建物面積合計:270㎡(1F/135㎡ 2F/135㎡) 有効面積合計:189㎡(1F・2F 各95㎡) 各機能の面積:180㎡ 1F/研修室95㎡ 2F/シアター85㎡</p>

5. 機能構成(案)

(案2) 税関棟をエントランスに シアターと研修室を税関棟に集約

- 有効面積範囲の目安
- 有効面積超過
- 有効面積内



5. 機能構成(案)

(案2)

① メリット

- 研修室とシアターを入口近くに設けることにより、団体見学の動線がスムーズ。
- 展示機能と調査研究機能を隣接させることにより、展示更新しやすい。

② デメリット

- 管理機能と調査研究機能が離れているので、運営しにくい可能性がある。
- 税関棟に必要機能を収めるためには、管理機能が手狭になる。

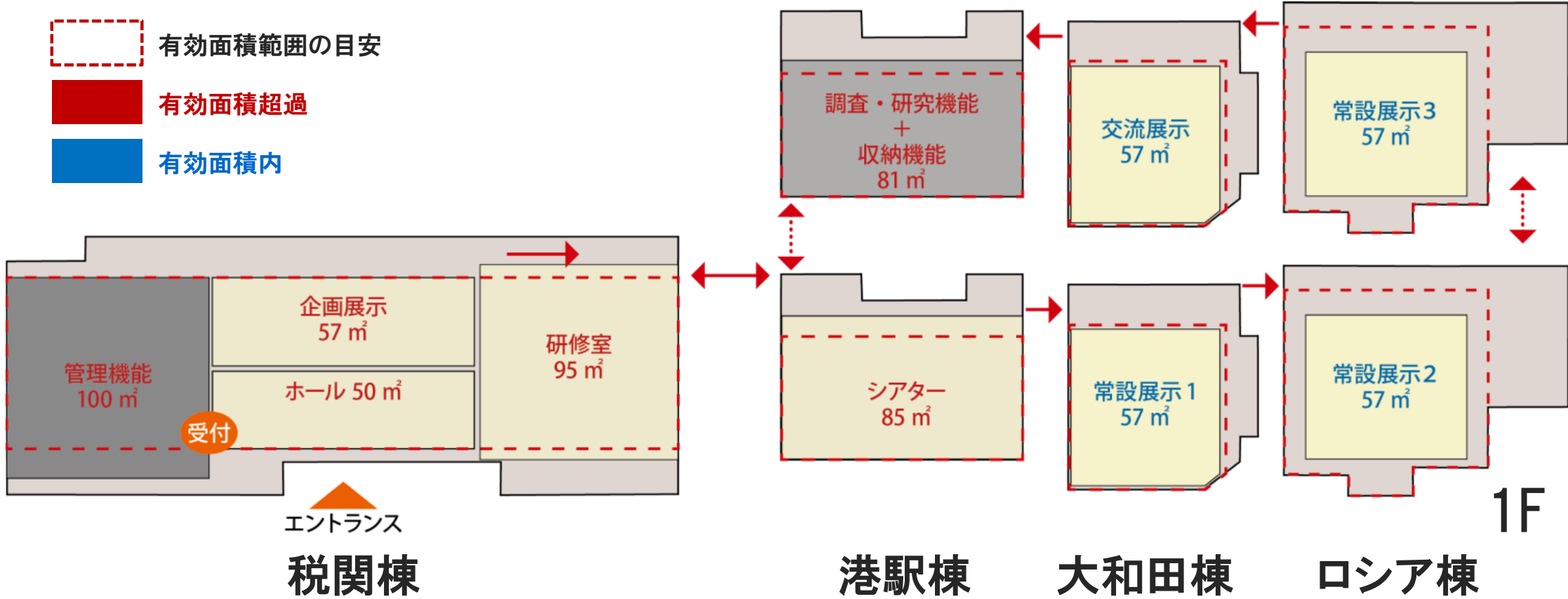
③ 面積の仮設定

<p>税関棟</p>	<p>△</p> <p>建物面積合計:404㎡ 有効面積:283㎡</p> <p>各機能の面積:合計300㎡ ※有効面積の不足は約6%程度、レイアウトの工夫で実現は可能。</p>
<p>港駅棟</p>	<p>○</p> <p>建物面積合計:208㎡(1F/104㎡ 2F/104㎡) 有効面積合計:146㎡ (1F・2F 各73㎡)</p> <p>各機能の面積合計:114㎡ 1F/常設展示57㎡ 2F/企画展示57㎡</p>
<p>大和田棟</p>	<p>○</p> <p>建物面積合計:180㎡(1F/90㎡ 2F/90㎡) 有効面積合計:126㎡ (1F・2F 各63㎡)</p> <p>各機能の面積:114㎡ 1F/常設展示57㎡ 2F/交流展示57㎡</p>
<p>ロシア棟</p>	<p>○</p> <p>建物面積合計:270㎡(1F/135㎡ 2F/135㎡) 有効面積合計:189㎡ (1F・2F 各95㎡)</p> <p>各機能の面積:138㎡ 1F/常設展示57㎡ 2F/調査・研究81㎡</p>

5. 機能構成(案)

(案3) 税関棟をエントランスに
企画展示を正面に設け、常に新鮮味を保つ

- 有効面積範囲の目安
- 有効面積超過
- 有効面積内



5. 機能構成(案)

(案3)





①メリット

- 企画展をエントランス正面に配置することで、常に新鮮味を保つことができる。
- 研修室、シアター、展示への順に動線をつくれるため、団体が利用しやすい。

②デメリット

- 研修室を大きくとるためには、管理機能が手狭になる。
- シアターや調査研究・収蔵機能が手狭になる。

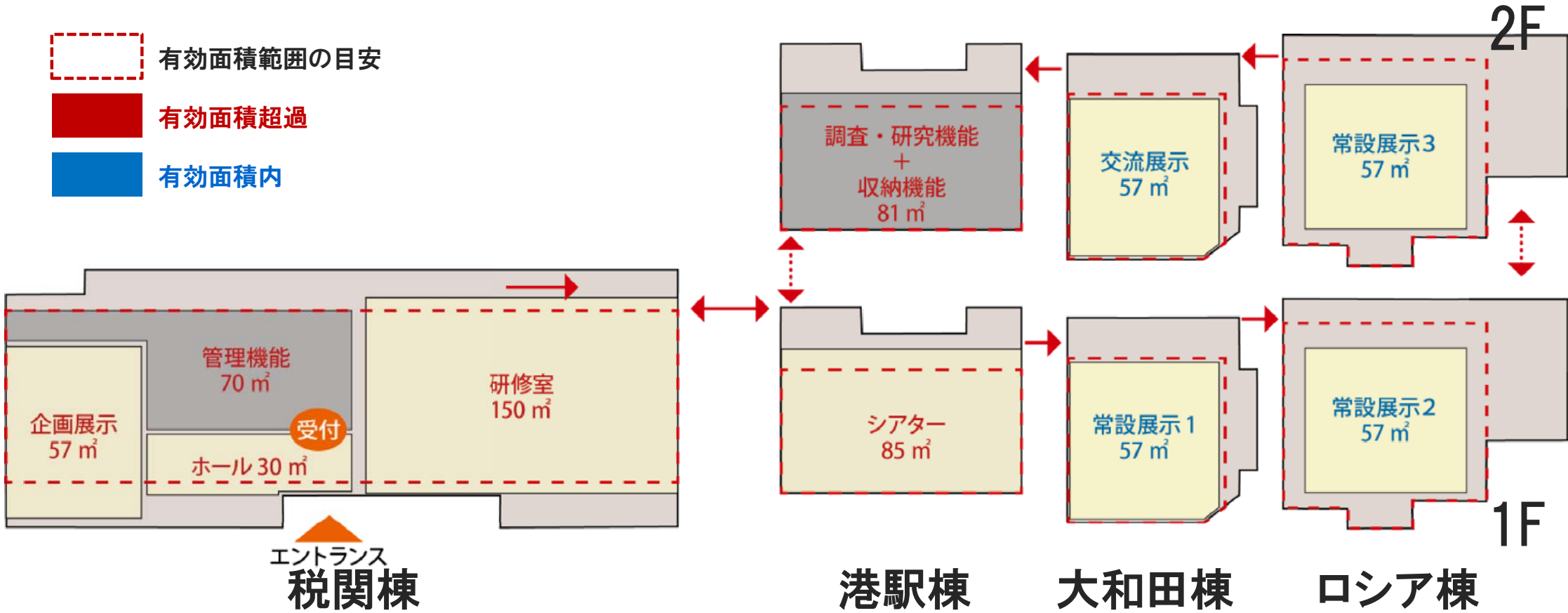
③面積の仮設定

税関棟	<p>建物面積合計:404㎡ 有効面積:283㎡</p> <p> 各機能の面積:合計302㎡ ※有効面積の不足は約7%程度、レイアウトの工夫で実現は可能。</p>
港駅棟	<p>建物面積合計:208㎡(1F/104㎡ 2F/104㎡) 有効面積合計:146㎡(1F・2F 各73㎡)</p> <p> 各機能の面積合計:166㎡ 1F/シアター85㎡ 2F/調査・研究81㎡ ※面積不足は約14%程度。2階建は階段等が必要で、機能面の見直しが必要な可能性。</p>
大和田棟	<p>建物面積合計:180㎡(1F/90㎡ 2F/90㎡) 有効面積合計:126㎡ (1F・2F 各63㎡)</p> <p> 各機能の面積:114㎡ 1F/常設展示57㎡ 2F/交流展示57㎡</p>
ロシア棟	<p>建物面積合計:270㎡(1F/135㎡ 2F/135㎡) 有効面積合計:189㎡ (1F・2F 各95㎡)</p> <p> 各機能の面積:114㎡ 1F/常設展示57㎡ 2F/常設展示57㎡</p>

5. 機能構成(案)

(案3') 税関棟をエントランスに
約150人収容可能な研修室を設け団体見学対応を重視

- 有効面積範囲の目安
- 有効面積超過
- 有効面積内



5. 機能構成(案)

(案3')





①メリット

- 他の案に比べて研修室を広く取ることにより、大人数の団体対応をスムーズに行うことができる。
- (他の案: $95\text{m}^2 \div 50 \sim 60$ 人程度、案3': $150\text{m}^2 \div 150 \sim 160$ 人程度)

②デメリット

- 研修室を大きくとるためには、管理機能が手狭になる。
- シアターや調査研究・収蔵機能が手狭になる。

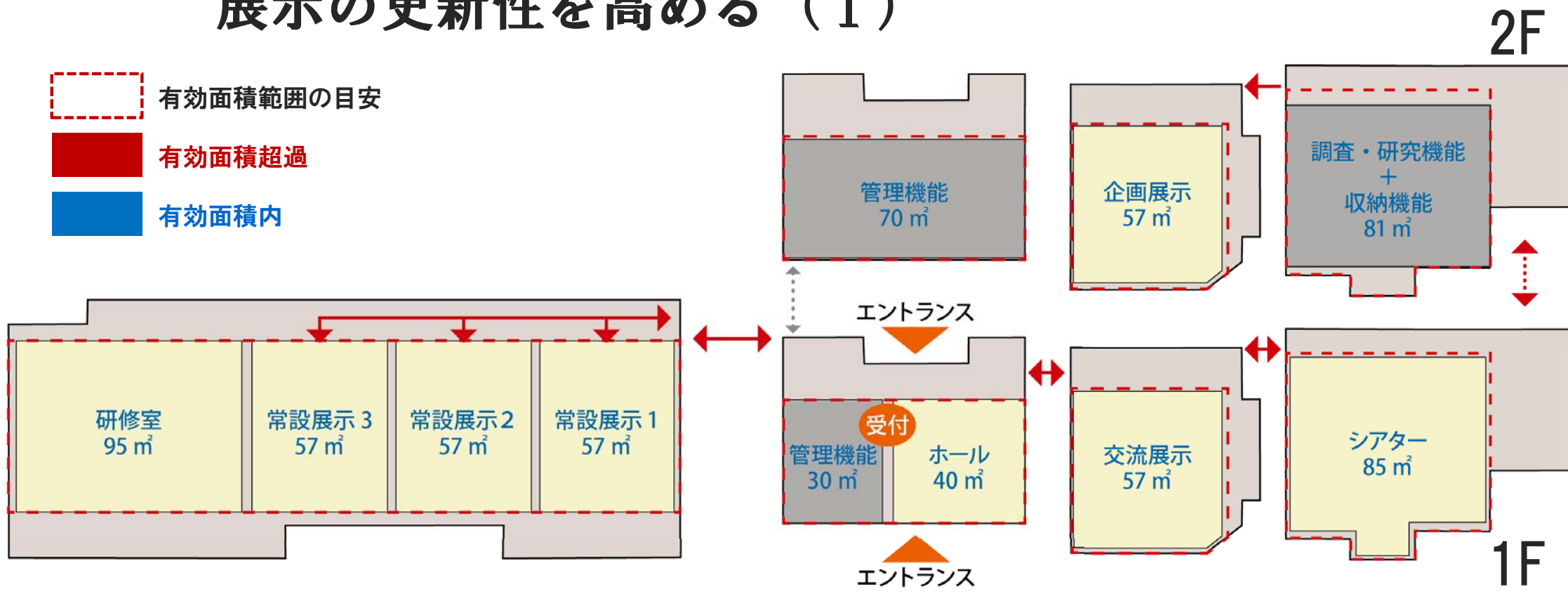
③面積の仮設定

税関棟	<p>建物面積合計: 404m^2 有効面積: 283m^2</p> <p> 各機能の面積: 合計307m^2 ※有効面積の不足は約8%程度、レイアウトの工夫で実現は可能。</p>
港駅棟	<p>建物面積合計: 208m^2(1F/104m^2 2F/104m^2) 有効面積合計: 146m^2(1F・2F 各73m^2)</p> <p> 各機能の面積合計: 166m^2 1F/シアター85m^2 2F/調査・研究81m^2 ※面積不足は約14%程度。2階建は階段等が必要で、機能面の見直しが必要な可能性。</p>
大和田棟	<p>建物面積合計: 180m^2(1F/90m^2 2F/90m^2) 有効面積合計: 126m^2 (1F・2F 各63m^2)</p> <p> 各機能の面積: 114m^2 1F/常設展示57m^2 2F/交流展示57m^2</p>
ロシア棟	<p>建物面積合計: 270m^2(1F/135m^2 2F/135m^2) 有効面積合計: 189m^2 (1F・2F 各95m^2)</p> <p> 各機能の面積: 114m^2 1F/常設展示57m^2 2F/常設展示57m^2</p>

5. 機能構成(案)

(案4) 港駅棟をエントランスに 展示の更新性を高める (1)

- 有効面積範囲の目安
- 有効面積超過
- 有効面積内



税関棟

港駅棟

大和田棟

ロシア棟



5. 機能構成(案)

(案4)

①メリット

- 南北から入れるので、将来的な周辺整備に対応しやすい。
- 交流展示・企画展示を調査研究機能に近づけることで、展示更新しやすい。

②デメリット

- 常設展示と交流展示が離れるため、ストーリーが分断される可能性がある。
- 管理機能を階で分けるため、運営しにくい可能性がある。

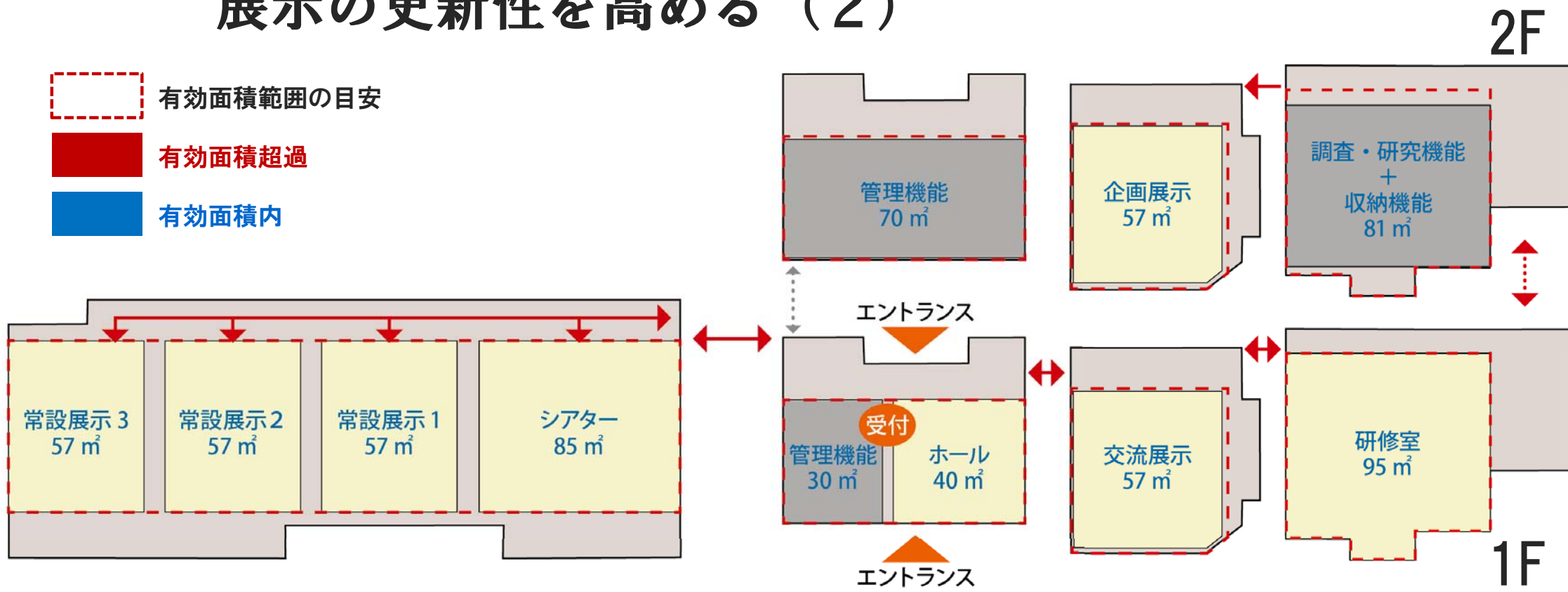
③面積の仮設定

税関棟	建物面積合計:404㎡ 有効面積:283㎡ 各機能の面積:合計266㎡
港駅棟	建物面積合計:208㎡(1F/104㎡ 2F/104㎡) 有効面積合計:146㎡(1F・2F 各73㎡) 各機能の面積合計:140㎡ 1F/管理機能30㎡ホール40㎡ 2F/管理機能70㎡
大和田棟	建物面積合計:180㎡(1F/90㎡ 2F/90㎡) 有効面積合計:126㎡ (1F・2F 各63㎡) 各機能の面積:114㎡ 1F/交流展示57㎡ 2F/企画展示57㎡
ロシア棟	建物面積合計:270㎡(1F/135㎡ 2F/135㎡) 有効面積合計:189㎡ (1F・2F 各95㎡) 各機能の面積:166㎡ 1F/シアター85㎡ 2F/調査・研究81㎡

5. 機能構成(案)

(案5) 港駅棟をエントランスに 展示の更新性を高める (2)

- 有効面積範囲の目安
- 有効面積超過
- 有効面積内



税関棟

港駅棟

大和田棟

ロシア棟



5. 機能構成(案)

(案5)

① メリット

- 南北から入れるので、将来的な周辺整備に対応しやすい。
- 交流展示・企画展示を調査研究機能に近づけることで、展示更新しやすい。
- 管理上、夜間の貸室利用に対応しやすい。

② デメリット

- 常設展示と交流展示が離れるため、ストーリーが分断される可能性がある。
- 管理機能を階で分けるため、運営しにくい可能性がある。

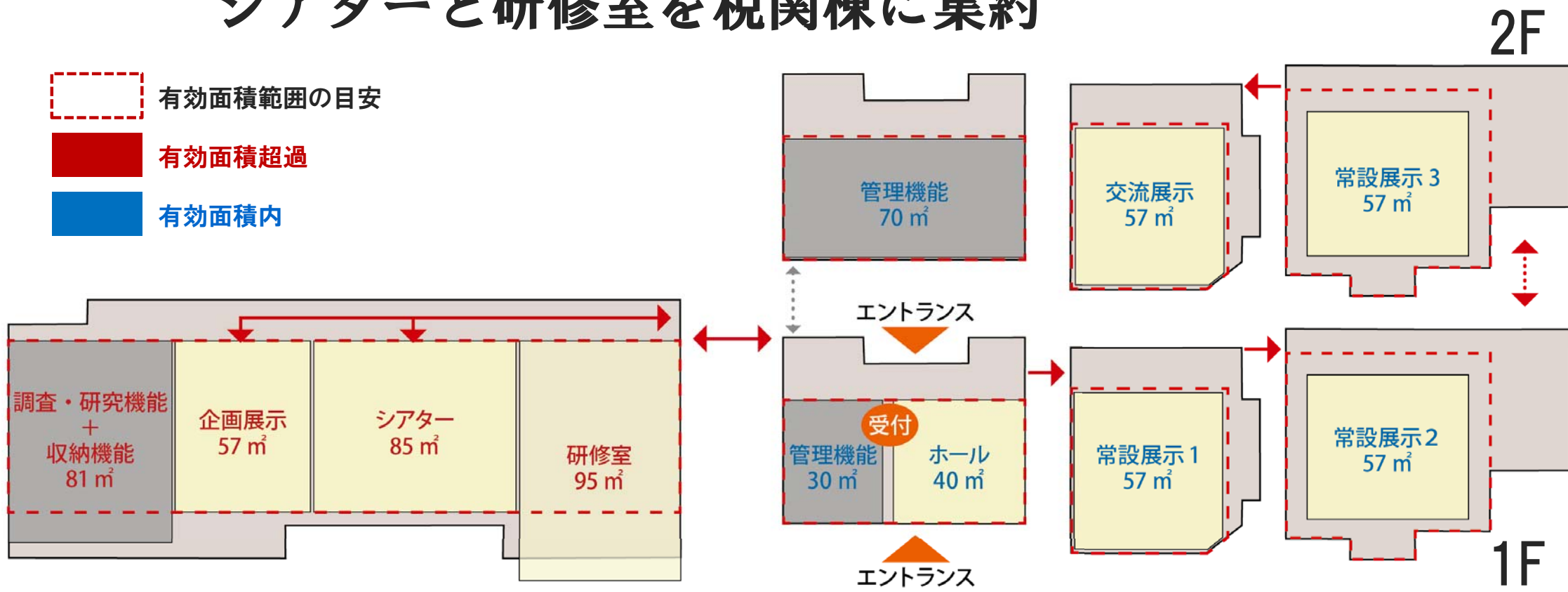
③ 面積の仮設定

税関棟	 <p>建物面積合計:404㎡ 有効面積:283㎡ 各機能の面積:合計256㎡</p>
港駅棟	 <p>建物面積合計:208㎡(1F/104㎡ 2F/104㎡) 有効面積合計:146㎡(1F・2F 各73㎡) 各機能の面積合計:140㎡ 1F/管理機能30㎡ ホール40㎡ 2F/管理機能70㎡</p>
大和田棟	 <p>建物面積合計:180㎡(1F/90㎡ 2F/90㎡) 有効面積合計:126㎡(1F・2F 各63㎡) 各機能の面積:114㎡ 1F/交流展示57㎡ 2F/企画展示57㎡</p>
ロシア棟	 <p>建物面積合計:270㎡(1F/135㎡ 2F/135㎡) 有効面積合計:189㎡(1F・2F 各95㎡) 各機能の面積:176㎡ 1F/研修室95㎡ 2F/調査・研究81㎡</p>

5. 機能構成(案)

(案6) 港駅棟をエントランスに シアターと研修室を税関棟に集約

- 有効面積範囲の目安
- 有効面積超過
- 有効面積内



税関棟

港駅棟

大和田棟

ロシア棟



5. 機能構成(案)

(案6)

①メリット

- 南北から入れるので、将来的な周辺整備に対応しやすい。
- 研修室とシアターを近くに設けることにより、団体見学の動線がスムーズ。
- 企画展示が行われていない時期は、研修室として兼用できる。
- (企画展示を研修室に兼用する場合は1クラス分に対応)

②デメリット

- 管理機能を階で分けるため、運営しにくい可能性がある。

③面積の仮設定

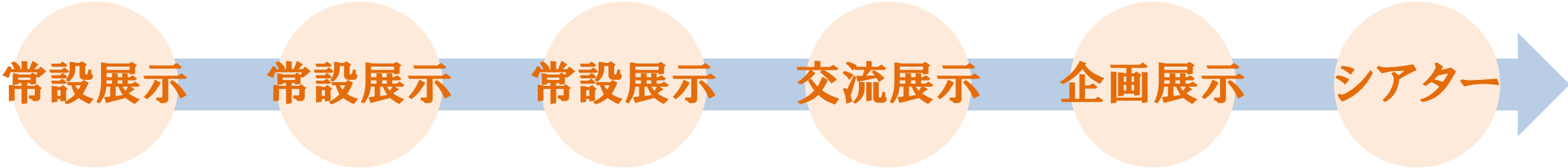
<p>税関棟</p>	<p>△</p> <p>建物面積合計:404㎡ 有効面積:283㎡</p> <p>各機能の面積:合計318㎡ ※有効面積の不足は約12%程度、1階建で階段等を必要としないためレイアウトの工夫で実現は可能。</p>
<p>港駅棟</p>	<p>○</p> <p>建物面積合計:208㎡(1F/104㎡ 2F/104㎡) 有効面積合計:146㎡(1F・2F 各73㎡) 各機能の面積合計:140㎡ 1F/管理機能30㎡ ホール40㎡ 2F/管理機能70㎡</p>
<p>大和田棟</p>	<p>○</p> <p>建物面積合計:180㎡(1F/90㎡ 2F/90㎡) 有効面積合計:126㎡(1F・2F 各63㎡) 各機能の面積:114㎡ 1F/常設展示57㎡ 2F/交流展示57㎡</p>
<p>ロシア棟</p>	<p>○</p> <p>建物面積合計:270㎡(1F/135㎡ 2F/135㎡) 有効面積合計:189㎡(1F・2F 各95㎡) 各機能の面積:114㎡ 1F/常設展示57㎡ 2F/常設展示57㎡</p>

6. 利用パターンの検討

(1) 属性ごとの想定見学パターン

① 基本動線

- 全ての展示をじっくりと読み解く(想定見学時間約1時間～)。



② 団体動線1

- 時間の限られるツアー団体(想定見学時間30分以内)。

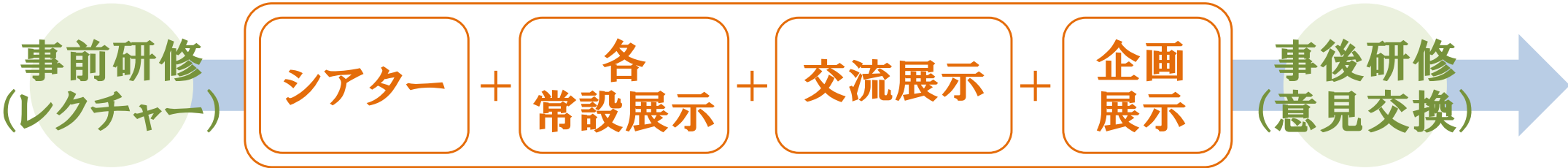


6. 利用パターンの検討

(1) 属性ごとの想定見学パターン

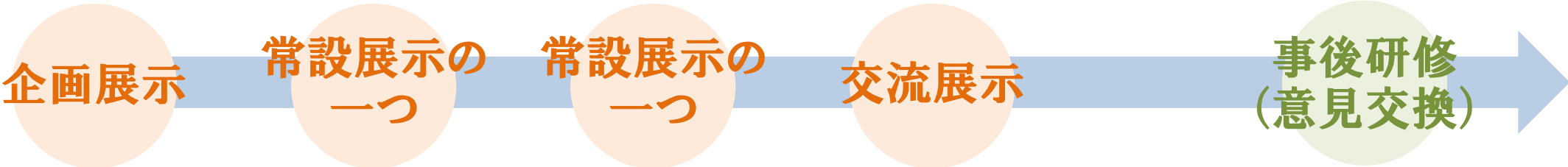
③ 団体動線2

- 教育旅行向けに、展示見学の前後に研修の時間を設ける。
(想定見学時間約2時間～)



④ 解説動線 (一例)

- 特定のテーマを解説員が掘り下げて説明 (想定見学時間1時間～)。
- 見学者のニーズや時間に応じて、様々なバリエーションを持たせる。



3. 今後の検討課題

1. 今後の検討課題

(1) 金ヶ崎地区全体の検討課題

- 福井県と協働し、鉄道遺産の活用や配置計画を定めた上で金ヶ崎地区全体の一体的な整備のためのマスタープランのブラシアップを行う。
- サービス機能は民間資本の誘致等を今後検討する。
- 民間資本の誘致にあたっては、例えば、海外の富裕層に向けたきめ細かいサービスを提供できる高級ホテルの整備等、様々な可能性を検討していく。
- 市内外の回遊性、観光スポットとの連携に向けた具体的な方策の検討。

1. 今後の検討課題

(2) ムゼウムの整備方針

- 建築基本設計と並行し、予算に見合った適正な諸室と規模の検討を推し進める。
- 復元4棟は運用上連結する必要があるため、意匠や方法について検討を進める。
- ムゼウムで扱う範囲の検討(例: 敦賀空襲、最近の中東や東アジアの国際情勢等)。
- 新たな資料や情報を展示設計の初期段階で精査。

(3) 鉄道遺産の整備方針

- 休止軌道の利用や、転車台の配置等について、福井県等と協議しながら具体的に検討していくとともに、並行して用地取得の交渉を具体的に進めていく。
- 新たに収集する資料の保管場所や活用方法。
- 市内外の鉄道遺産との具体的な連携方策の検討。